

IBM

@server

iSeries

システム値

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

システム値

バージョン 5 リリース 3

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、61ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： iSeries
System values
Version 5 Release 3

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.8

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

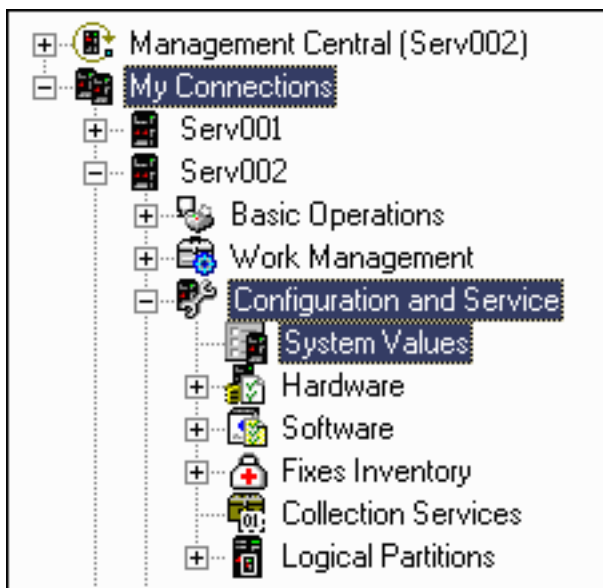
目次

i5/OS (TM) システム値	1	i5/OS (TM) システム値: 記憶域の概要	46
V5R3 の新機能	2	i5/OS (TM) システム値: システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト概要	47
このトピックを印刷	4	システム値の概念	48
i5/OS (TM) システム値ファインダー	5	機密保護関連システム値のロック機能	48
システム値パラメーター	6	復元操作におけるシステム値設定の影響	50
システム値カテゴリー	28	システム値の管理	52
i5/OS (TM) システム値: 監査の概要	30	システム値を比較して更新	53
i5/OS (TM) システム値: 日時の概要	31	機密保護ウィザードの完了	54
i5/OS (TM) システム値: 装置概要	32	機密保護関連システム値のロックおよびアンロック	54
i5/OS (TM) システム値: インターナショナル概要	32	復元操作システム値の準備	55
i5/OS (TM) システム値: ジョブ概要	34	復元操作システム値の計画	55
i5/OS (TM) システム値: ライブラリー・リスト概要	35	復元操作システム値の構成	56
i5/OS (TM) システム値: メッセージおよびサービス概要	36	復元コマンドの実行	57
i5/OS (TM) システム値: パスワード概要	37	システム値の保管	57
i5/OS (TM) システム値: パフォーマンス概要	38	システム・アクセス・レベルの保護	58
i5/OS (TM) システム値: 電源制御概要	40	システム値インベントリーの処理	60
i5/OS (TM) システム値: 印刷概要	41		
i5/OS (TM) システム値: 再始動概要	41	付録. 特記事項	61
i5/OS (TM) システム値: 保管および復元概要	43	商標	63
i5/OS (TM) システム値: 機密保護概要	44	資料に関するご使用条件	63
i5/OS (TM) システム値: サインオン概要	45		

i5/OS (TM) システム値

システム値は、iSeries (TM) システム全体の操作環境に影響を与える情報です。システム値は、システム上のオブジェクトではありません。システム値には、システムの特定の部分の操作に関する制御情報が入っています。操作環境を定義する目的のために、システム値を使用してシステムを変更することができます。たとえば、システム日付、ライブラリー・リスト、インターナショナル特性、および特定の機密保護機能はすべてシステム値によってセットされます。

システム値は、iSeries (TM) ナビゲーターまたは文字ベースのインターフェースを使用して管理できます。表示されているイメージは、iSeries ナビゲーターの中のシステム値機能の位置を示します。強調表示されているパスにしたがって、システム値にアクセスしてください。システム値を選択した後で、システム値のカテゴリのうちのいずれか 1 つを選択することができます。



システム値を変更するには、システム値の変更 (CHGSYSVAL) コマンドに対して使用 (*USE) 権限を持っていないければなりません。さらに、特殊権限が必要なシステム値もあります。特殊権限が必要な場合は、以下のシステム値のトピックの中でその旨が記されています。システム値について詳しくは、以下のトピックを参照してください。

- **5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』**

OS/400 (R) システム値ファインダーを使用して、特定のシステム値またはシステム値のカテゴリについての情報がどこにあるかを見つけることができます。このツールを使用すると、特定のシステム値が iSeries (TM) ナビゲーターのどこにあるか、および、システム値の有効な使用方法がわかります。このツールは、文字ベースのインターフェース用語 (QAUDCTL、QPWDLVL など) に慣れているシステム管理者には非常に便利なツールです。ファインダーは、文字ベースのインターフェース用語と、iSeries (TM) ナビゲーターのグラフィカル・インターフェースで使用されている関連用語を識別します。さらに、システム値のそれぞれについての詳細な説明も提供されています。

- **6 ページの『システム値パラメーター』**

すべてのシステム値の完全なリストが表示されます。さらに、各システム値について、文字ベースのパラメーター値、タイプ、および長さを見つけることができます。文字ベースの値は、システムの設定または検索のためのプログラムを作成するとき、または文字ベースのインターフェースを使用する場合に使用してください。◀

- **28 ページの『システム値カテゴリ』**

iSeries ナビゲーターは、システム値を、監査で始まりシステム制御で終わるカテゴリにグループ化し

ます。このトピックを選択して、各カテゴリ内に入っているシステム値の（個々のシステム値に関する情報へのリンクも含む）を見つけてください。システム値トピック全体を4ページの『このトピックを印刷』することもできます。

- **48 ページの『システム値の概念』**

システム値を設定する前に、特定のシステム値の概念について学ぶことができます。このトピックを選択して、システム値をロックおよびアンロックする方法や、システム値が復元操作に対して与える影響の説明を検索します。

- **52 ページの『システム値の管理』**

管理者として、システム値を管理するのに役立つ多くのタスクを行うことができます。システム値の保管、構成、およびロックする方法については、このトピックを選択してください。

▶ また、Web 上の iSeries (TM) ナビゲーター・タスクを使用してシステム値を管理できます。このタスクでは、Web ブラウザーを使用してシステム値を処理できます。iSeries (TM) ナビゲーターのシステム値機能だけでなく、時間管理機能も使用できるため、タイム・ゾーン (QTIMZON) システム値および時間調整 (QTIMADJ) システム値の処理も可能になります。◀

V5R3 の新機能

V5R3 にはシステム値をさらにカスタマイズするための大幅な機能拡張があります。既存のシステム値の機能拡張および新しいシステム値を利用して、リリースごとにシステムの機能性を向上させることができます。

Web アクセス可能度

Web 上の iSeries ナビゲーター・タスクを使用して、システム値を管理できます。このタスクでは、Web ブラウザーを使用してシステム値を処理できます。iSeries ナビゲーターのシステム値コンポーネントだけでなく、時間管理コンポーネントも使用できるため、タイム・ゾーン (QTIMZON) システム値および時間調整 (QTIMADJ) システム値の処理も可能になります。

i5/OS (TM) システム値ファインダーの機能拡張

文字ベースのインターフェースでシステム値を処理した経験がある場合は、そのシステム値の名前 (QAUDCTL や QUSEADPAUT など) に慣れていることと思います。これらのシステム値の名前を iSeries (TM) ナビゲーターで見つけることが困難な場合は、5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』を使用すると容易に見つけられます。

システム値ファインダーには廃止システム値という新カテゴリが含まれています。この新しいカテゴリでは、i5/OS (TM) オペレーティング・システムでもはや使用されないすべてのシステム値が記述されます。

文字ベースの名前とパラメーター (可能な値) を含む新しいトピック

システム値ごとに文字ベースの文書を検索するには、6 ページの『システム値パラメーター』が役に立ちます。このトピックでは、システム値ごとに、タイプ、長さ、パラメーター (可能な値) などの文字ベースの情報が提供されています。

さらに、システム値のトピックごとに、文字ベースの特殊パラメーター (iSeries (TM) ナビゲーターでは「可能な値」と呼ばれている) が含まれています。可能な値のリストがあるシステム値については、iSeries (TM) ナビゲーターでの関連する可能な値の後に文字ベースのパラメーターを括弧に入れて示してあります。iSeries ナビゲーターで選択されるシステム値または選択されないシステム値については、システム値の説明の中で、文字ベースのインターフェースでの関連するパラメーターを括弧に入れて示してあります。

新規システム値および変更システム値

V5R3 には、多くの新規システム値または変更されたシステム値があります。 V5R3 でのシステム値変更を識別するために、次の表を参照してください。

新規システム値		
監査レベル拡張	QAUDLVL2	監査される追加のアクションを指定できます。16 を超えるアクションを監査するには、QAUDLVL および QAUDLVL2 を指定する必要があります。
登録済み出口プログラムを使用したルート (/)、QOpenSys、およびユーザー定義のファイル・システムのスキャン	QSCANFS	このシステム値を使用して、ルート (/)、QOpenSys、およびユーザー定義のファイル・システムのオブジェクトを、統合ファイル・システム・スキャン関連出口点に登録された出口プログラムでスキャンするかどうかを指定します。
スキャン制御	QSCANFCTL	このシステム値を使用して、スキャン制御オプションを指定します。
スレッド類縁性	QTHDRSCAFN	2 次スレッドに初期スレッドと同じプロセッサ・グループおよびメモリーへの類縁性を持たせるかどうかを指定します。
スレッド・リソースの自動調整	QTHDRSCADJ	システムが現在システムで実行中のスレッドの類縁性を動的に調整するかどうかを指定します。
日付と時刻	QDATETIME	日付 (QDATE) システム値と時刻 (QTIME) システム値を結合します。
即時終了の最大時間	QENDJOBLMT	ジョブの即時終了時のアプリケーション・クリーンアップ時間の長さを指定します。
タイム・ゾーン	QTIMZON	システムで使用されるタイム・ゾーンを指定します。
時刻調整	QTIMADJ	外部時刻ソースとの同期を維持するためにシステム・クロックの調整に使用するソフトウェアを識別します。
アクセス・パスの保管	QSAVACPTH	アクセス・パスを保管するかどうかを指定します。
変更されたシステム値		
即時シャットダウンの最大時間	QPWRDWNLMT	新しい即時終了の最大時間 (QENDJOBLMT) システム値に対応するように、デフォルト値が 900 秒に変更されました。
協定世界時 (UTC) からのオフセット	QUTCOFFSET	このシステム値は編集できません。このシステム値は新しいタイム・ゾーン (QTIMZON) システム値により決定されます。

時刻	QTIME	システムが夏時間調整の時刻を使用する場合、夏時間調整の影響を受ける時間については日付と時刻を変更できません。たとえば、4月6日に夏時間調整のためシステム・クロックが2:00から3:00に移る場合、4月6日には時刻を2:00より遅いか等しい時刻または3:00より早い時刻に変更することはできません。
スケジュール再始動の許可	QIPLDATTIM	システムが夏時間調整の時刻を使用する場合、夏時間調整の影響を受ける時間については日付と時刻を変更できません。たとえば、4月6日に夏時間調整のためシステム・クロックが2:00から3:00に移る場合、4月6日には時刻を2:00より遅いか等しい時刻または3:00より早い時刻に変更することはできません。
プロセッサ・マルチタスキング	QPRCMLTTSK	新しい値として2が追加されました。2の値は、プロセッサ・マルチタスキングがオンとオフのいずれであるかをシステムが決定することを示します。このシステム値は、iSeries ^(TM) ナビゲーターにはありません。



システム値の詳細については、iSeries^(TM) Information Center の 1 ページの『i5/OS^(TM) システム値』トピックをご覧ください。



2004 年 6 月 30 日付の新機能

監査システム値にさらに機密保護が追加されました。監査システム値を表示できるようにするためには、すべてのオブジェクト (*ALLOBJ) または監査 (*AUDIT) 特殊権限が必要です。適切な権限なしに iSeries^(TM) ナビゲーターからシステム値にアクセスしようとしても、監査カテゴリは表示されません。文字ベースのインターフェースで監査システム値にアクセスしようとする、使用不可 (*NOTAVL) 値が表示されます。ただし、例外として、QAUDFRCLVL の場合は -1 が表示されます。詳しくは、30 ページの『i5/OS^(TM) システム値: 監査の概要』を参照してください。



新規または変更された内容を知る方法

技術変更が行われた部分を知るために、下記の情報を使用します。

-  のイメージは、新しい情報または変更された情報が始まる箇所を示します。
-  のイメージは、新しい情報または変更された情報が終わる箇所を示します。

 このリリースにおける新しい機能または変更された機能に関するその他の情報については、「最初にお読みください」を参照してください。 

このトピックを印刷

PDF 版のシステム値トピックを表示またはダウンロードするには、『システム値』(約  2500 KB ) を選択します。

▶ システム値・パラメーター・トピックのシステム値リストを印刷するには、PDF 版『システム値』よりも、Web ブラウザーから印刷するのが最適です。システム値・パラメーター・トピックのシステム値リストを印刷するには、6 ページの『システム値パラメーター』に進み、「ファイル」→「印刷」を選択します。用紙の向きは横長にしてください。◀

以下の関連トピックを表示またはダウンロードできます。

• ▶ 時間管理 ◀


• iSeries (TM) 機密保護解説書 

PDF ファイルの保管

表示または印刷のために PDF をワークステーションに保管するには:

1. ブラウザーで PDF を右クリックする (リンク上で右クリックしてください)。
2. ▶ Internet Explorer を使用している場合は、「Save Target As...」をクリックする。Netscape (TM) Communicator を使用している場合は、「Save Link As...」をクリックする。◀
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

Adobe (TM) Acrobat Reader のダウンロード

▶ これらの PDF を表示または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です。Adobe Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  からダウンロードできます。◀

i5/OS (TM) システム値ファインダー

i5/OS (TM) システム値ファインダーを使用して、システム値についての情報を **高速 (fast)** に見つけます。iSeries (TM) ナビゲーターで表示されるシステム値のカテゴリーを検索することも、文字ベースのインターフェースで使ったシステム値名を検索することもできます。

カテゴリーによる検索

システム値のカテゴリーの検索

監査日付と時刻装置
国際化ジョブライブラリー・リストメッセージおよびサービスパスワードパフォーマンス電源制御印刷再始動保管および復元機密保護サインオン記憶域システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト廃止システム値

名前による検索

文字ベース・インターフェースで使った個々のシステム値名の名前による検索。

例: *QAUDCTL* または単に *QAUD* と入力する。

システム値の名前を入力してください

システム値パラメーター

▶ システム値は、iSeries[™] ナビゲーターを使用して設定または表示できます。ただし、システム値を設定または検索するプログラムをコーディングする場合は、文字ベースのシステム値名および関連する特殊パラメーターを使用する必要があります。文字ベースのシステム値は iSeries[™] ナビゲーターのシステム値フィールドに対応し、文字ベースの特殊パラメーターは iSeries[™] ナビゲーターで使用できる値に対応します。

次の表には、システム値 (文字ベースの名前を使用した) および関連する特殊パラメーターの完全なリストがあります。この表は、文字ベースのインターフェースでシステム値を処理するために必要な情報の要約です。この表に示すタイプおよび長さは、CL コマンドに適用されます。システム値検索 (QWCRSVAL) API の場合は 10 進数形式ではなくバイナリー形式を使用するため、これとは異なります。たとえば、システム値検索 (RTVSYVAL) コマンドでは 10 進数が戻されることを予想しますが、システム値検索 (QWCRSVAL) API は 2 進数を戻します。各システム値および関連する特殊パラメーターについては詳しくは、それぞれのシステム値のトピックを参照してください。

iSeries[™] ナビゲーター名 (iSeries ナビゲーター・インターフェースのフィールドとして参照されるもの) に慣れていて、次の表で文字ベースのシステム値名を見つけられない場合は、5 ページの『i5/OS[™] システム値ファインダー』を使用してシステム値のカテゴリーを表示してください。各カテゴリーには、iSeries[™] ナビゲーターのシステム値名と文字ベースの名前が示されます。

注: このトピックのシステム値リストを印刷するには、Web ブラウザーから印刷するのが最適です。Web ブラウザーからこのトピックを印刷するには、「ファイル」→「印刷」を選択します。用紙の向きは横長にしてください。

次の表には、システム値ごとに文字ベースの名前と文字ベースの特殊パラメーター (可能な値) を使用して、すべてのシステム値が示されています。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QABNORMSW	直前のシステム終了の状況	再始動	CHAR	1	0	0 - 正常。 1 - 異常。
QACGLVL	ジャーナル会情報	メッセージおよびサービス	CHAR	80	*NONE	*NONE - ジャーナル処理を行わない。 *JOB - ジョブ・リソース使用のジャーナル。 *PRINT - プリンター出力のジャーナル。
QACTJOB ¹	再始動時に割り振る記憶域 - アクティブ・ジョブ	ジョブ	DECIMAL	(5 0)	20	0 から 100 ジョブ。
QADLACTJ ¹	必要時に割り振る追加の記憶域 - アクティブ・ジョブ	ジョブ	DECIMAL	(5 0)	10	0 から 100 ジョブ。
QADLTOTJ ¹	必要時に割り振る追加の記憶域 - 合計ジョブ数	ジョブ	DECIMAL	(5 0)	10	0 から 100 ジョブ。
QALWOBJRST	機密オブジェクトの復元の許可	保管および復元	CHAR	150	*ALL	*ALL - すべてのオブジェクトが復元される。 *NONE - 機密属性を持つオブジェクトの復元を許可しない。 *ALWSYSTT - システム状態属性および継承状態属性を持つオブジェクトが復元される。 *ALWPGMADP - 借用属性を持つプログラムおよびサービス・プログラムが復元される。 *ALWPTF - PTF インストール時に、システム状態または継承状態のプログラム、サービス・プログラム、モジュール、権限を借用するオブジェクト、S_ISUID (set-user-ID) 属性が使用可能になっているオブジェクト、および S_ISGID (set-group-ID) 属性が使用可能になっているオブジェクトのシステムへの復元を許可する。 *ALWSETUID - S_ISUID (set-user-ID) 属性が使用可能になっているファイルの復元を許可する。 *ALWSETGID - S_ISGID (set-group-ID) 属性が使用可能になっているファイルの復元を許可する。 *ALWVLDERR - 妥当性検査エラーのあるオブジェクトまたは改ざんされた疑いのあるオブジェクトの復元を許可する。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QALWUSRDMN	ライブラリー内の ユーザー・ドメイ ン・オブジェクト の許可	機密保護	CHAR	500	*ALL	*ALL - システム上のすべてのライブラリーおよび統合ファイ ル・システム・ディレクトリにユーザー・ドメイン・オブジ ェクトを入れることができる。 *DIR - 統合ファイル・システムのディレクトリ内の任意の SOM ^(TM) オブジェクトにユーザー・ドメイン・オブジェクト を入れることができる。*DIR は QSYS ファイル・システム および QDLS ファイル・システムには適用されません。 *DIR と *ALL は同時には指定できません。 library-name - ユーザー・ドメイン・オブジェクトを入れるこ とができるライブラリー名のリスト。
QASTLVL	操作援助レベル	機密保護	CHAR	10	*BASIC	*BASIC - 操作援助機能レベル。 *INTERMED - 中間レベル。 *ADVANCED - 高機能レベル。
QATNPGM	アテンション・プ ログラム	システム・デフ ォルトおよびユ ーザー・デフォ ルト	CHAR	20	*ASSIST	*ASSIST - 操作援助機能メインメニュー。 *NONE - アテンション・プログラムを指定しない。 program-name - 指定したプログラムが使用される。
QAUDCTL ¹	アクション監査を 活性化する	監査	CHAR	50	*NONE	*NONE - 監査を行わない。 *OBJAUD- オブジェクトが監査される。 *AUDLVL - アクションが監査される。 *NOQTEMP - QTEMP オブジェクトは監査されない。 *NOTAVL - ユーザーは監査システム値を表示することを認可 されていない。
QAUDENDACN	監査ジャーナル・ エラー・アクショ ン	監査	CHAR	10	*NOTIFY	*NOTIFY - 機密保護監査ジャーナルに通知が送信される。 *PWRDWN SYS - システムはシステム参照コード (SRC) で終 了する。 *NOTAVL - ユーザーは監査システム値を表示することを認可 されていない。
QAUDFRCLVL	補助記憶域に書き 込む前のジャーナ ル項目の最大数	監査	DECIMAL	(5 0)	*SYS	*SYS - システムはディスク・プールにジャーナル項目を書き 込む。10 進数値 0 と同等。 -1 - ユーザーは監視システム値を表示することを認可されて いない。 1 から 100 - 機密保護監査ジャーナル項目の数。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QAUDLVL ¹	アクション監査の 活動化 - 使用可能 な処理	監査	CHAR	160	*NONE	<p>*AUDLVL2 - 監査される機密保護アクションを判別するため に QAUDLVL システム値と QAUDLVL2 システム値の両方 が使用される。</p> <p>*AUTFAIL - 権限障害。</p> <p>*CREATE - オブジェクト作成。</p> <p>*DELETE - システム上での外部オブジェクトの削除が監査さ れる。</p> <p>*JOBDDTA - ジョブに影響するアクション。</p> <p>*NETBAS - ネットワーク・ベースの機能。</p> <p>*NETCLU - クラスタ・リソース・グループ。</p> <p>*NETCMN - ネットワーキング機能および通信機能。</p> <p>*NETFAIL - ネットワーク障害。</p> <p>*NETSCK - ソケット・タスク。</p> <p>*NONE - アクションの監査を行わない。</p> <p>*OBJMGT - 一般オブジェクト・タスク。</p> <p>*OFCSRV - OfficeVision^(R) ライセンス・プログラム。</p> <p>*OPTICAL - 光ディスク機能が監査される。</p> <p>*PGMADP - プログラム所有者からの借用権限。</p> <p>*PGMFAIL - 安全性違反 (たとえば、命令のブロック化、妥 当性検査値の障害、ドメイン違反)。</p> <p>*PRTDTA - 印刷機能。</p> <p>*SAVRST - 保管/復元情報。</p> <p>*SECCFG - 機密保護構成。</p> <p>*SECDIRSRV - デイレクトリ・サービス機能。</p> <p>*SECIPC - プロセス間通信。</p> <p>*SECNAS - ネットワーク認証サービス・アクション。</p> <p>*SECUN - 機密保護実行時機能。</p> <p>*SECCKD - ソケット記述子。</p> <p>*SECURITY - 機密保護関連の機能。</p> <p>*SECVFY - 検査機能の使用。</p> <p>*SECVLDL - 妥当性検査リスト・オブジェクト。</p> <p>*SERVICE - システム保守ツールの使用。</p> <p>*SPLFDDTA - スプール・ファイル。</p> <p>*SYSMGT - システム管理機能。</p> <p>*NOTAVL - ユーザーは監査システム値を表示することを認可 されていない。</p>

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QAUDLVL2 ¹	アクシオン監査の 活動化 - 使用可能 な処理	監査	CHAR	990	*NONE	<p>*AUTFAIL - 権限障害。 *CREATE - オブジェクト作成。 *DELETE - システム上での外部オブジェクトの削除が監査さ れる。 *JOBDDTA - ジョブに影響するアクシオン。 *NETBAS - ネットワーク・ベースの機能。 *NETCLU - クラスタ・リソース・グループ。 *NETCMN - ネットワーキング機能および通信機能。 *NETFAIL - ネットワーク障害。 *NETSCK - ソケット・タスク。 *NONE - アクシオンの監査を行わない。 *OBJMGT - 一般オブジェクト・タスク。 *OFCSRV - OfficeVision^(R) ライセンス・プログラム。 *OPTICAL - 光ディスク機能が監査される。 *PGMADP - プログラム所有者からの借用権限。 *PGMFAIL - 保水性違反 (たとえば、命令のブロック化、妥 当性検査値の障害、ドメイン違反)。 *PRDTA - 印刷機能。 *SAVRST - 保管/復元情報。 *SECCFG - 機密保護構成。 *SECDIRSRV - デイレクトリー・サービス機能。 *SECIPC - プロセス間通信。 *SECNAS - ネットワーク認証サービス・アクシオン。 *SECUN - 機密保護実行時機能。 *SECSCKD - ソケット記述子。 *SECURITY - 機密保護関連の機能。 *SECVFY - 検査機能の使用。 *SECVLIDL - 妥当性検査リスト・オブジェクト。 *SERVICE - システム保守ツールの使用。 *SPLFDTA - スプール・ファイル。 *SYSMGT - システム管理機能。 *NOTAVL - ユーザーは監査システム値を表示することを認可 されていない。</p>

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QAUTOCFG	ローカル制御装置 と装置	装置	CHAR	1	1	0 - 自動構成はオフ。 1 - 自動構成はオン。
QAUTORMT	遠隔制御装置と装 置	装置	CHAR	1	1	0 - 自動構成はオフ。 1 - 自動構成はオン。
QAUTOSPRPT ²	自動システム使用 不可報告	システム・デフ ォルトおよびユ ーザー・デフォ ルト	CHAR	1	0	0 - 報告はオフ。 1 - 報告はオン。
QAUTOVRT	パススルー装置と Telnet	装置	DECIMAL	(5 0)	0	0 - 仮想装置の自動構成はオフ。 1 から 32500 - 自動的に構成される仮想装置の数。 *NOMAX - 仮想装置の最大数なし。 10 進数値 32767 と同 等。 *REGFAC - 仮想装置選択 (QIBM_QPA_DEVSEL) 出口点に登 録されたプログラムは、仮想装置がシステムによって選択また は自動的に作成される必要がある時に呼び出されます。 10 進 数値 -1 と同等。
QBASACTLVL	基本記憶域プール 有資格スレッドの 最大数	パフォーマンス	DECIMAL	(5 0)	6	1 から 32767 スレッド。
QBASPOOL	基本記憶域プールの 最小サイズ	パフォーマンス	DECIMAL	(10 0)	2000 KB	256-2147483647 MB
QBOOKPATH ²	Book path	システム・デフ ォルトおよびユ ーザー・デフォ ルト	CHAR	315	'/QDLS/ QBKBOOKS/ BOOKS'	ディレクトリ名
QCCSID	コード化文字セッ ト ID	インターナシヨ ナル	DECIMAL	(5 0)	65535	1-65535
QCENTURY ¹	システム日付	日時	CHAR	1	なし	0 - 1928 から 1999 年。 1 - 2000 から 2053 年。
QCFCMSGQ	回線、制御装置、 および装置用のメ ッセージ待ち行列	メッセージおよ びサービス	CHAR	20	QSYSOPR QSYS	メッセージ待ち行列名とライブラリー名。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QCHRID	図形文字セット/コード・ページ	インターナショナル	CHAR	20	国/地域によって異なる	文字セット ID については 1 から 32767、コード・ページ ID については 1 から 32767。
QCHRIDCTL	文字識別コード制御	インターナショナル	CHAR	10	*DEV D	*DEV D - *DEV D 特殊値は CHRID コマンド・パラメーターの場合と同じ機能を実行する。 *JOBCCSID - *JOBCCSID 特殊値は CHRID コマンド・パラメーターの場合と同じ機能を実行する。
QCMNARB	再始動での通信アービター・ジョブ	パフォーマンス	CHAR	10	*CALC	*CALC - オペレーティング・システムが通信アービター・ジョブの数を計算する。 0 から 99 - 通信アービター・ジョブの数。
QCMNRCYLMT	通信構成の回復	パフォーマンス	CHAR	20	0 0	最初の 10 文字にはカウント限界が右寄せで入る。最後の 10 文字には時間間隔が右寄せで入る。
QCNTYID	国/地域	インターナショナル	CHAR	2	国/地域によって異なる	国/地域 ID。
QCONSOLE	コンソール名	システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト	CHAR	10	QCONSOLE	QCONSOLE または指定された名前。
QCRTAUT	QSYS.LIB ファイル・システムに新規に作成されたオブジェクトのデフォルト権限	システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト	CHAR	10	*CHANGE	*CHANGE - ユーザーはオブジェクトの内容を変更できる。 *ALL - ユーザーはオブジェクトの読み取り、変更、削除、および機密保護の管理を行うことができる。 *USE - ユーザーは、オブジェクトの作成、オブジェクトの内容の表示、または要求されたコマンドで接続オブジェクトおよびその内容にアクセスする必要がある場合に接続オブジェクトの内容の参照を行うことができる。 *EXCLUDE - オブジェクトへのアクセスを許可しない。
QCRTOBIAUD	新規作成オブジェクトのデフォルト監査	監査	CHAR	10	*NONE	*NONE - 監査を行わない。 *USRPRF - 監査はユーザー・プロフィールに依存する。 *CHANGE - 変更を監査する。 *ALL - 使用または変更されたときに監査する。 *NOTAVL - ユーザーは監査システム値を表示することを認可されていない。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QCTLBSD	制御サブシステム/ ライブラリー	再始動	CHAR	20	QBASE QSYS	最初の 10 文字にはサブシステム記述名が右寄せで入る。最後の 10 文字にはライブラリー名が右寄せで入る。
QCURSYM	通貨記号	インターナショナル	CHAR	1	国/地域によって異なる	ブランク、ハイフン (-)、アンバーサンド (&)、アスタリスク (*), ゼロ (0) を除く任意の文字。
QDATE ¹	システム日付	日時	CHAR	7	出荷時の値なし	使用する日付形式によって異なる。
QDATETIME ¹	システム日付	日時	CHAR	20	出荷時の値なし	QDATE および QTIME を指定する。
QDATFMT ¹	日付形式	インターナショナル	CHAR	3	国/地域によって異なる	このシステム値の可能な値は、YMD、MDY、DMY、または JUL (ユリウス暦形式)。ここで Y は年、M は月、D は日。
QDATSEP ¹	日付区切り記号	インターナショナル	CHAR	1	国/地域によって異なる	スラッシュ (/)、ダッシュ (-)、ピリオド (.), コンマ (,), またはブランク。
QDAY ¹	システム日付	日時	CHAR	3	出荷時の値なし	1-366
QDAYOFWEEK ¹	システム日付	日時	CHAR	4	出荷時の値なし	*SUN - 日曜 *MON - 月曜 *TUE - 火曜 *WED - 水曜 *THU - 木曜 *FRI - 金曜 *SAT - 土曜
QDBFSTCCOL	バックグラウンドでのデータベース統計収集許可	パフォーマンス	CHAR	10	*ALL	*ALL - ユーザー要求およびシステム要求。 *USER - ユーザー要求。 *SYSTEM - システム要求。 *NONE - 要求なし。
QDBRCVYWT	再始動が完了する前のデータベース回復の待機	再始動	CHAR	1	0	0 - データベース回復を待たない。 1 - データベース回復を待つ。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QDECFMT ¹	10 進数の形式	インターナショナル	CHAR	1	国/地域によって異なる	blank - 小数点としてピリオド、3 桁のグループ文字としてコンマを使用し、小数点の左方のゼロを抑制する。 J - 小数点としてコンマ、3 桁のグループ文字としてピリオドを使用する。ゼロ抑制文字は小数点の左方の (最初の位置ではなく) 2 番目の位置にあります。コンマの左方のゼロ値の収支には 1 つだけ先行ゼロが書かれます (0,04)。J の入力により、先行ゼロを抑制する編集コードがオーバーライドされません。 I - 小数点としてコンマ、3 桁のグループ文字としてピリオドを使用し、小数点の左方のゼロを抑制する。
QDEVNAMING	装置命名規則	装置	CHAR	10	*NORMAL	*NORMAL - 命名規則は iSeries (TM) 標準に従う。 *S36 - 命名規則は System/36(TM) 標準に従う。 *DEVADR - 装置名は装置アドレスから派生する。
QDEVRCYACN	ワークステーションで装置エラーが起こった時に実行されるアクション	装置	CHAR	20	*DSCMSG	*MSG - 入力エラー・メッセージをそのユーザーのアプリケーション・プログラムに送る。 *DSCENDRQS - ジョブを切り離します。再度サインオンすると、取り消し要求機能が実行され、ジョブの制御を最後の要求レベルに戻します。 *DSCMSG - ジョブを切り離します。再度サインオンすると、エラー・メッセージがユーザーのアプリケーションに送られます。 *ENDJOB - ジョブを終了します。そのジョブのジョブ・ログが作成されません。 *ENDJOBNOTLIST - ジョブを終了します。そのジョブのジョブ・ログは作成されません。
QDSCJOBTV	切断されたジョブのタイムアウト・インターバル	ジョブ	CHAR	10	240	5 から 1440 - 切断インターバルの範囲。 *NONE - 切断インターバルなし。
QDSPSGNINF	サインオン情報の表示	サインオン	CHAR	1	0	0 - いいえ。 1 - はい。
QDYNPTYADJ	対話型ジョブのジョブ優先順位の動的調整	パフォーマンス	CHAR	1	1	0 - オフ。 1 - オン。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QDYNPTYSCD	優先順位バンド内 でのジョブ優先順 位の動的調整	パフォーマンス	CHAR	1	1	0 - オフ。 1 - オン。
QENDJOBBLMT	即時終了の最大時 間	ジョブ	DECIMAL	(5 0)	120	30 から 3600 秒。
QFRCCVNRST	復元中のオブジェ クトの変換	保管および復元	CHAR	1	7	0 - 何も変換されない。 1 - 妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換される。 2 - オペレーティング・システムの現行バージョンで使用する ために変換が必要なオブジェクト、および妥当性検査エラーが あるオブジェクトが変換される。 3 - 改ざんされた疑いのあるオブジェクト、妥当性検査エラー があるオブジェクト、およびオペレーティング・システムの現 行バージョンで使用するために変換が必要なオブジェクトが変 換される。 4 - 変換するために十分な作成データを含み、有効なデジタ ル・シグニチャーを持たないオブジェクトが変換される。 5 - 十分な作成データを含むオブジェクトが変換される。 6 - 有効なデジタル・シグニチャーを持たないすべてのオブ ジェクトが変換される。 7 - すべてのオブジェクトが変換されます。
QHOURL	時刻	日時	CHAR	2	出荷時の値なし	00-23
QHSTLOGSIZ	活動記録ログ内の レコードの最大数	メッセージおよ びサービス	DECIMAL	(5 0)	5000	1 から 65535 レコード。
QIGC	DBCS 可能	インターナシヨ ナル	CHAR	1	1	0 - DBCS バージョンはインストールされない。 1 - DBCS バージョンがインストールされる。
QIGCCDEFNT	コード化フォント 名	インターナシヨ ナル	CHAR	20	国/地域によって 異なる	最初の 10 文字にはコード化フォント名が入り、最後の 10 文 字にはライブラリ一名が入る。 *NONE - システムに対して示されるコード化フォントはあり ません。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QJGCFNTSIZ	コード化フォント・ポイント・ポイント・サイズ	インタナショナル	DECIMAL	(4 1)	*NONE	*NONE - 定義された 2 バイト・コード化フォント・ポイント・サイズはない。10 進数値 0 と同等。 1 から 9999 - 0.1 を単位とする 2 バイト・コード化フォント・ポイント・サイズ。たとえば、バイナリーの 9999 という値は 999.9 を意味します。
QINACTTV	非活動ジョブのタイムアウト・インターバル	ジョブ	CHAR	10	*NONE	*NONE - システムは非活動な対話型ジョブについての検査を行わない。 5 から 300 - アクションが行われるまでにジョブが非活動状態を継続できる時間 (分)。
QINACTMSGQ	ジョブがタイムアウトになったとき	ジョブ	CHAR	20	*NONE	*DSCJOB - 対話式ジョブが切断された。 *ENDJOB - 対話式ジョブが終了した。
QIPLDATTM	スケジュールされた再始動の許可	再始動	CHAR	20	*NONE	*NONE - 自動 IPL なし。 CYYMMDDHHMMSS - ここで、C は世紀、YY は年、MM は月、DD は日、HH は時、MM は分、SS は秒です。世紀フラグの 0 は、19xx 年を示し、1 は、20xx 年を示します。
QIPLSTS	直前の再始動のタイプ	再始動	CHAR	1	0	0 - オペレーター・パネル IPL。 1 - 電源復元後に自動 IPL。 2 - 再始動 IPL。 3 - 時刻 IPL。 4 - 遠隔 IPL。
QIPLTYPE	再始動のタイプ	再始動	CHAR	1	0	0 - 無人。 1 - 有人。専用保守ツールを使用。 2 - 有人。デバッグ・モードでコンソールを使用。
QJOBMSGQFL	最大サイズに達したとき	ジョブ	CHAR	10	*NOWRAP	*NOWRAP - 折り返しなし。 *WRAP - 開始で折り返し、再び埋め込みを開始する。 *PRTWRAP - メッセージ待ち行列を折り返し、折り返しのためオーバーレイされるメッセージを印刷する。
QJOBMSGQMX	ジョブ・ログの最大サイズ	ジョブ	DECIMAL	(5 0)	16	8-64 MB
QJOBSPLA	プリンター出カブロックの初期サイズ	ジョブ	DECIMAL	(5 0)	3516	3516 から 32767 バイト。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QKDBBUF	デフォルト・システム・キーボード	システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト	CHAR	10	*TYPEAHEAD	*TYPEAHEAD - 先行入力はおん、アテンション・キー・バッファリングはオフ。 *NO - 先行入力およびアテンション・キーはオフ。 *YES - 先行入力およびアテンション・キーはおん。 キーボードの言語文字セットを指定する。
QKBDTYPE	デフォルト・システム・キーボード	システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト	CHAR	3	国/地域によって異なる	キーボードの言語文字セットを指定する。
QLANGID	言語	インターナショナル	CHAR	3	国/地域によって異なる	言語 IDを指定する。
QLEAPADJ	うるう年の調整	日時	DECIMAL	(5 0)	国/地域によって異なる	0 - グレゴリオ暦。 1 から 3 - 年を調整。
QLIBLCKLVL	ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト内のライブラリーのロック	パフォーマンス	CHAR	1	1	0 - ロックされない。 1 - ロックされる。
QLMTDEVSSN	各ユーザーを 1 つの装置セッションに制限する	サインオン	CHAR	1	0	0 - 制限なし。 1 - 1 装置に制限。
QLMTSECOFR	特権ユーザーを特定の装置セッションに制限する	サインオン	CHAR	1	1	0 - *ALLOBJ または *SERVICE 特殊権限を持つユーザーは任意の装置にサインオンできる。 1 - *ALLOBJ または *SERVICE 特殊権限を持つユーザーは明示的権限のある装置のみサインオンできる。
QLOCALE	ロケール	インターナショナル	CHAR	1024	国/地域によって異なる	*NONE - ロケール・オブジェクトを指定しない。 *C - 定義済みロケール・オブジェクトを使用する。 *POSIX - 定義済みロケール・オブジェクトを使用する。
QMAXACTLVL	有資格スレッドの最大数	パフォーマンス	DECIMAL	(5 0)	*NOMAX	*NOMAX - 最大数なし。10 進数値 32767 と同等。 2-32767
QMAXJOB	ジョブの最大数	ジョブ	DECIMAL	(10 0)	163520	32000 から 485000 ジョブ。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QMAXSGNACN	最大値に達したとき	サインオン	CHAR	1	3	1 - 装置をオフに変更する。 2 - ユーザー・プロファイルを使用不可にする。 3 - 装置をオフに変更し、ユーザー・プロファイルを使用不可にする。
QMAXSIGN	正しくないサインオンの試み	サインオン	CHAR	6	3	1 から 25 - サインオンの最大許容試行回数。 *NOMAX - サインオンの最大許容試行回数の制限はありません。
QMAXSPLF	プリンター出力ファイルの最大数	ジョブ	DECIMAL	(10 0)	9999	9999 から 9999999 ファイル。
QMCHPOOL	マシン記憶域プール・サイズ	パフォーマンス	DECIMAL	(10 0)	20	プール・サイズ (MB)。
QMINUTE ¹	時刻	日時	CHAR	2	出荷時の値なし	0-59
QMLTTHDACN	マルチスレッド・ジョブ内の機能がスレッド・セーフでないとき	ジョブ	CHAR	1	2	1 - メッセージを送らずに、スレッド・セーフでない機能を実行する。 2 - スレッド・セーフでない機能を実行し、通知メッセージを送る。 3 - スレッド・セーフでない機能を実行しない。
QMODEL	型式番号	システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト	CHAR	4	出荷時の値なし	モデル番号を示す 4 文字の値。
QMONTH ¹	システム日付	日時	CHAR	2	出荷時の値なし	1-12
QPASTHRSVR	使用可能な表示装置パススルー・サーバー・ジョブ	パフォーマンス	CHAR	10	*CALC	*CALC - オペレーティング・システムがサーバー・ジョブの数を計算する。 0 から 100 - サーバー・ジョブの数。
QPRADJ	記憶域プールと活動レベルの自動調整	パフォーマンス	CHAR	1	2	0 - パフォーマンス調整なし。 1 - IPL 時にパフォーマンス調整。 2 - IPL 時および動的にパフォーマンス調整。 3 - 動的パフォーマンス調整。
QPRBFTR	問題ログ・ファイルター	メッセージおよびサービス	CHAR	20	*NONE	最大 2 つの 10 文字の値の文字リスト。最初の値は問題ファイルター名、2 番目の値はライブラリー名。 *NONE - 問題フィルターを使用しない。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QPRBHLDTV	最小保持期間	メッセージおよびサービス	DECIMAL	(5 0)	30	0 から 999 日。
QPRCFEAT	プロセッサのフ ィーチャャー・コ ード	システム・デフ ォルトおよびユ ーザー・デフォ ルト	CHAR	4	出荷時の値なし	ユーザー作成プログラム内の 4 文字の値。
QPRCMLTTSK	プロセッサ・マ ルチタスキング	システム・デフ ォルトおよびユ ーザー・デフォ ルト	CHAR	2	2	0 - マルチタスキングはオフ。 1 - マルチタスキングはオン。 2 - システムにより制御される。
QPRTDEV	デフォルト印刷装 置	印刷	CHAR	10	PRT01	デフォルトの印刷装置を指定する。
QPRTKYFMT	印刷キーを使用す るときの形式	印刷	CHAR	10	*PRTHDR	*NONE - ボーダー情報およびヘッダー情報を含まない。 *PRTBDR - ボーダー情報を含む。 *PRTHDR - ヘッダー情報を含む。 *PRTALL - ボーダー情報およびヘッダー情報を含む。
QPRTTXT	印刷ページ・フッ ター	印刷	CHAR	30	*BLANK	ページ・フッター用の 0 から 30 文字のテキスト。 *NONE - ページ・フッター・テキストなし。
QPWDEXPTV	パスワード有効期 限	パスワード	CHAR	6	*NOMAX	*NOMAX - パスワードを使用できる日数を制限しない。 1 から 366 - パスワードが使用できなくなるまでの日数。
QPWDLMTAJC	連続する数字の制 限	パスワード	CHAR	1	0	0 - 隣接数字を許可する。 1 - 隣接数字を許可しない。
QPWDLMTCHR	制限される文字	パスワード	CHAR	10	*NONE	指定された文字が制限される。 *NONE - 文字を制限しない。
QPWDLMTREP	反復文字の制限	パスワード	CHAR	1	0	0 - 同じ文字を複数回使用できる。 1 - 同じ文字を複数回使用できない。 2 - 同じ文字を複数回使用できるが隣接してはならない。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QPWDLVL	パスワード・レベル	パスワード	DECIMAL	(5 0)	0	0 - 1 から 10 文字のパスワードがサポートされる。 1 - 1 から 10 文字のパスワードがサポートされ、NetServer パスワードは除去される。 2 - 1 から 128 文字のパスワードがサポートされる。 3 - 1 から 128 文字のパスワードがサポートされ、NetServer パスワードは除去される。
QPWDMAXLEN	パスワードの最大 長	パスワード	DECIMAL	(5 0)	8	QPWDLVL が 0 または 1 の場合は 1 から 10。 QPWDLVL が 2 または 3 の場合は 1 から 128。
QPWDMINLEN	パスワードの最小 長	パスワード	DECIMAL	(5 0)	6	QPWDLVL が 0 または 1 の場合は 1 から 10。 QPWDLVL が 2 または 3 の場合は 1 から 128。
QPWDPOSDIF	各位置に異なる文 字が必要	パスワード	CHAR	1	0	0 - 前のパスワードの中の同じ位置に対応する位置に同じ文字 を使用できる。 1 - 前のパスワードの中の同じ位置に対応する位置に同じ文字 を使用できない。
QPWDRQDDGT	数字が少なくとも 1 つ必要	パスワード	CHAR	1	0	0 - 数字は不要。 1 - 数字が必要。
QPWDRQDDIF	パスワードの再利 用サイクル	パスワード	CHAR	1	0	0 - 同じでよい。 1 - 前の 32 個のパスワードと異なるもの。 2 - 前の 24 個のパスワードと異なるもの。 3 - 前の 18 個のパスワードと異なるもの。 4 - 前の 12 個のパスワードと異なるもの。 5 - 前の 10 個のパスワードと異なるもの。 6 - 前の 8 個のパスワードと異なるもの。 7 - 前の 6 個のパスワードと異なるもの。 8 - 前の 4 個のパスワードと異なるもの。
QPWDVLDPGM	パスワード妥当性 検査プログラム	パスワード	CHAR	20	*NONE	*NONE - 妥当性検査プログラムを使用しない。 *REGFAC - 妥当性検査プログラム名が登録ファシリティから リトリリーブされる。 <i>program-specification</i> - 妥当性検査プログラムの名前。このオ プションは、システムが QPWDLVL 0 または 1 で実行され ている場合のみ有効です。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QPWRDWNLMT	即時シャットダウンの最大時間	再始動	DECIMAL	(5 0)	900 秒。	1 から 32767 秒。
QPWRRSTIPL	電源障害後の自動再始動の許可	再始動	CHAR	1	0	0 - 自動 IPL は許可されない。 1 - 自動 IPL が許可される。
QQRYDEGREE	Query と索引の並列処理	パフォーマンス	CHAR	10	*NONE	*NONE - 並列処理は許可されない。 *IO - データベース Query 最適化プログラムが Query のために入出力並列処理の使用を選択する場合、任意の数のタスクを使用できる。 *OPTIMIZE - Query の処理に入出力並列処理あるいは SMP 並列処理のいずれかを使用する場合、Query 最適化プログラムは任意の数のタスクの使用を選択できる。 *MAX - Query 最適化プログラムは Query の処理に入出力並列処理あるいは SMP 並列処理のいずれかの使用を選択できる。
QQRYTIMLMT	データベース Query の時間制限	パフォーマンス	CHAR	10	*NOMAX	*NOMAX - 最大数なし。 0 から 2147352578 - 秒数。
QRCLSPLSTG	未使用プリンター出力記憶域の自動クリーニングアップ	記憶域	CHAR	10	*NOMAX	*NOMAX - 最大保存インタルなし。 *NONE - 保存インタルなし。 1 から 366 - 空のスプール・データベース・メンバを新しいスプール・ファイル用として保持する日数。
QRETSVRSEC	サーバー機密保護情報が保存されるようにする	機密保護	CHAR	1	0	0 - 機密保護関連情報を保存しない。 1 - 機密保護関連情報を保存する。
QRMTIPL	遠隔パワーオンおよび再始動の許可	再始動	CHAR	1	0	0 - 遠隔パワーオンおよび IPL は許可されない。 1 - 遠隔パワーオンおよび IPL が許可される。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QRMTSIGN	遠隔パワーオンおよび再始動の許可	再始動	CHAR	20	*FRCSIGNON	*FRCSIGNON - すべての遠隔サインオン・セッションは通常のサインオン処理を必要とする。 *SAMEPRF - ソースのユーザー・プロファイル名とターゲットのユーザー・プロファイル名が同じなら、遠隔サインオンの場合のサインオンをバイパスできる。 *VERIFY - システムは、ユーザーにシステムへのアクセス権があることを確認してから、サインオンをバイパスすることを認める。 *REJECT - 遠隔サインオンは許可されない。
QRMTSRVATR	システムの遠隔保守の許可	メッセージおよびサービス	CHAR	1	0	0 - 遠隔サービス属性はオフ。 1 - 遠隔サービス属性はオン。
QSAVACCPH	アクセス・パスの保管	保管および復元	CHAR	1	0	0 - アクセス・パスを保存しない。 1 - アクセス・パスを保存する。
QSCANFS	登録済み出口プログラムを使用したルート (I)、QOpenSys、およびユーザー定義のファイル・システムのスキャン	機密保護	CHAR	200	*ROOTPNUD	*NONE - ファイル・システム・オブジェクトはスキャンされない。 *ROOTPNUD - ルート (I)、QOpenSys、およびユーザー定義のファイル・システムのオブジェクトをスキャンする。
QSCANFSCTL	スキャン制御オプション	機密保護	CHAR	200	*NONE	*NONE - デフォルト制御が使用される。 *ERRFAIL - 出口プログラム・エラーが検出された場合、操作は失敗する。 *FSVRONLY - ファイル・サーバーを介したアクセスのみをスキャンする。 *NOFAILCLO - スキャンの失敗がある場合、クローズ要求は失敗しない。 *NOPOSTRST - オブジェクトは復元されたためではなく変更された場合にスキャンされる。 *NOWRTUPG - システムは書き込みを組み込むためにアクセスの更新を試みない。 *USEOCOATR - スキャンは「オブジェクトの変更のみ (change only)」属性に依存する。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QSCPFCONS	コンソール問題が発生した場合	再始動	CHAR	1	1	0 - システムを終了する。 1 - 無人で IPL を継続する。
QSECON ¹	時刻	日時	CHAR	2	出荷時の値なし	00-59
QSECURITY	機密保護レベル	機密保護	CHAR	2	40	10 - システムは、サインオンのためのパスワードを必要としない。 20 - システムはサインオンのためにパスワードを必要とする。 30 - システムはサインオンのためにパスワードを必要とし、ユーザーはオブジェクトおよびシステム・リソースにアクセスする権限を持っている必要がある。 40 - システムはサインオンのためにパスワードを必要とし、ユーザーはオブジェクトおよびシステム・リソースにアクセスする権限を持っている必要がある。 50 - システムはサインオンのためにパスワードを必要とし、ユーザーはオブジェクトおよびシステム・リソースにアクセスする権限を持っている必要がある。 QTEMP ライブラリーおよびユーザー・ドメイン (*USRxxx) オブジェクトの機密保護と健全性が実行されません。
QSETJOBATR	ロケールを基にしたジョブ属性の設定	インターナショナル	CHAR	160	*NONE	*NONE - 属性は設定されない。 *CCSID - コード化文字セット ID *DATFMT - 日付形式 *DATSEP - 日付区切り文字 *DECfmt - 10 進数形式 *SRTSEQ - ソート順序 *TIMSEP - 時刻区切り文字
QSFWRRLLOG	システムで検出されたソフトウェア問題のログ記録	メッセージおよびサービス	CHAR	10	*LOG	*LOG - ソフトウェア・エラーがログに記録される。 *NOLOG - ロギングは行われない。
QSHRMEMCTL	書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされた記憶域の使用の許可	機密保護	CHAR	1	1	0 - 許可されません。 1 - 許可されます。
QSPCENV	デフォルト・ユーザー環境	システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト	CHAR	10	*NONE	*NONE - iSeries (TM) 環境が使用される。 *S36 - システム/36 環境が使用される。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QSPLFACN	ジョブ終了後プリンター出力切り離し	ジョブ	CHAR	10	*KEEP	*KEEP - 切り離さない。 *DETACH - 切り離す。
QSRLNBR	シリアル番号	システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト	CHAR	8	出荷時の値なし	8 文字のシリアル番号。
QSRSEQ	ソート順序	インターナショナル	CHAR	20	*HEX	*HEX - ソート順序テーブルなし。 *LANGIDSHR - テーブルには複数の文字について同じ重みを入れることができる。 *LANGIDUNQ - テーブルには文字ごとに固有の重みを入れる必要がある。 sort sequence table name - テーブルの名前とライブラリー。
QSRVDM	モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログ	メッセージおよびサービス	CHAR	10	*DMPUSRJOB	*DMPALLJOB - すべてのジョブの保守ログが作成される。 *DMPYSJOB - ユーザー・ジョブではなくシステム・ジョブのみの保守ログが作成される。 *DMPUSRJOB - システム・ジョブではなくユーザー・ジョブのみの保守ログが作成される。システム・ジョブには、システム・アービター、サブシステム・モニター、LU 保守プロセス、スプール読み取りプログラム、スプール書き込みプログラム、および start-control-program-function (SCPF) ジョブが含まれます。 *NONE - ジョブのログを要求しない。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QSTGLOWACN	最大使用量に達したとき	記憶域	CHAR	10	*MSG	*MSG - メッセージ CPI099C が QSYSMSG メッセージ待ち行列および QSYSOPR メッセージ待ち行列に送られる。 *CRITMSG - メッセージ CPI099B が「ユーザーへの重大メッセージ (Critical messages to user)」サービス属性で指定されたユーザーに送られる。サービス属性はサービス属性変更 (CHGSRVA) コマンドを使用して変更できます。 *REGFAC - QIBM_QWC_QSTGLOWACN 出口点用に登録されている任意の出口プログラムを実行するためにジョブを実行依頼できる。 *ENDSYS - システムは終了し、制限状態のままになる。 *PWRDWN SYS - システムは即時に電源を遮断して、再始動します。
QSTGLOWLMT ³	使用可能な記憶域のパーセント	記憶域	DECIMAL	(7 4)	5	0 から 100%。
QSTRPRTWTR	直前の再始動 - 開始済みの印刷装置	再始動	CHAR	1	1	0 - 印刷装置書出プログラムは開始していない。 1 - 印刷装置書出プログラムは開始済み。
QSTRUPPGM	システムをセットアップするための開始プログラム	再始動	CHAR	20	*QSTRUP QSYS	*NONE - プログラムは呼び出されない。 <i>program-name</i> - 最初の 10 文字にはプログラム名が入り、最後の 10 文字にはライブラリー名が入る。
QSTSMSG	状況メッセージの表示	メッセージおよびサービス	CHAR	10	*NORMAL	*NORMAL - 状況メッセージが表示される。 *NONE - 状況メッセージは表示されない。
QSYSLIBL	システム・ライブラリー・リスト	ライブラリー・リスト	CHAR	150	QSYS、QSYS2、QHLPSYS、QUSRSYS	ライブラリー名ごとに最大 10 文字。
QTHDRSCADJ	スレッド・リソースの自動調整	パフォーマンス	CHAR	1	1	0 - 自動調整なし。 1 - スレッド・リソースは自動調整される。
QTHDRSCAFN	スレッド類縁性	パフォーマンス	CHAR	20	*NOGROUP *NORMAL	*NOGROUP - スレッドのグループ化なし。 *GROUP - 2 次スレッドがグループ化される。 *NORMAL - スレッドは任意のリソースを使用できる。 *HIGH - スレッドは類縁性を持つリソースのみを使用する。
QTIMADJ	時刻調整	日時	CHAR	30	*NONE	*NONE - ソフトウェアを識別しない。 <i>identifier-name</i> 。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QTIME	時刻	日時	CHAR	9	出荷時の値なし	時、分、秒を指定する。
QTIMSEP ¹	時刻区切り記号	インターナショナル	CHAR	1	国/地域によって異なる	1 - コロン (:) 2 - ピリオド (.) 3 - コンマ (,) 4 - ブランク
QTIMZON	タイム・ゾーン	日時	CHAR	10	国/地域によって異なる	time-zone-identifier - 10 文字の ID 名。
QTOTJOB ¹	再始動時に割り振る記憶域 - 合計ジョブ数	ジョブ	DECIMAL	(5 0)	30	480000 より小さい値。
QTSEPOOL	タイム・スライスの終わりで対話型ジョブの基本プールへの移動	パフォーマンス	CHAR	10	*NONE	*NONE - ジョブはタイム・スライスの終わりに達したとき基本記憶プールに移動しない。 *BASE - ジョブはタイム・スライスの終わりに達したとき基本プールに移動する。
QUPSDLTYM	電源障害が発生したとき	電源制御	CHAR	20	*CALC	*BASIC - PRC、IOP カード、および Load Source 直接アクセス記憶装置にのみ電源が供給される。適切な待機時間 (秒数) が計算されます。 *CALC - 適切な待ち時間が計算される。2 次区画では *CALC ではなく計算された待ち時間が戻されます。 *NOMAX - アクションを開始しない。 0 - システムの自動電源遮断。 1 から 99999 - 指定された秒数の経過後にシステムの電源遮断。
QUPMSGQ	メッセージ待ち行列とライブラリー	電源制御	CHAR	20	QSYSOPR QSYS	メッセージ待ち行列名とライブラリー名。
QUSEADPAUT	呼び出し側プログラムからの借用権限をプログラムが使用できるようにするユーザー	機密保護	CHAR	10	*NONE	*NONE - 借用権限を使用するプログラムおよびサービス・プログラムの作成、変更、更新をすべてのユーザーが実行できる。 authorization list name - 借用権限を使用するプログラムおよびサービス・プログラムの作成、変更、更新を行うために、ユーザーが少なくとも *USE 権限を持つ必要がある権限リスト。

システム値	iSeries ナビゲーター名	カテゴリ	タイプ	長さ	出荷時の 値	可能な値
QUSRLIBL	ユーザー・ライブラリー・リスト	ライブラリー・リスト	CHAR	250	QGPL QTEMP	ライブラリー名ごとに最大 10 文字。
QUTCFFSET	UTC からのオフセット	日時	CHAR	5	+0000	システムのバージョンおよびリリースによって異なる。
QVFYOBIRST	復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査	保管および復元	CHAR	1	3	<p>1 - 復元でシグニチャーを検査しません。シグニチャーに関係なく、すべてのオブジェクトを復元する。</p> <p>2 - 復元でシグニチャーを検査する。未署名のコマンドおよびユーザー状態オブジェクトを復元します。シグニチャーが無効でも、署名されているコマンドおよびユーザー状態オブジェクトを復元します。継承状態オブジェクトおよびシステム状態オブジェクトは有効なシグニチャーがある場合にのみ復元します。</p> <p>3 - 復元でシグニチャーを検査する。未署名のコマンドおよびユーザー状態オブジェクトを復元します。署名されているコマンドおよびユーザー状態オブジェクトは、シグニチャーが有効である場合にのみ、復元します。継承状態オブジェクトおよびシステム状態オブジェクトは有効なシグニチャーがある場合にのみ復元します。</p> <p>4 - 復元でシグニチャーを検査する。未署名のコマンドおよびユーザー状態オブジェクトを復元しません。シグニチャーが無効でも、署名されているコマンドおよびユーザー状態オブジェクトを復元します。継承状態オブジェクトおよびシステム状態オブジェクトは有効なシグニチャーがある場合にのみ復元します。</p> <p>5 - 復元でシグニチャーを検査する。未署名のコマンドおよびユーザー状態オブジェクトを復元しません。署名されているユーザー状態オブジェクトは、シグニチャーが有効である場合にのみ、復元します。継承状態オブジェクトおよびシステム状態オブジェクトは有効なシグニチャーがある場合にのみ復元します。</p>
QYEAR ¹	システム日付	日時	CHAR	2	出荷時の値なし	0-99

注:

1

iSeries^(TM) ナビゲーターでは、このシステム値は他の文字ベースのシステム値と同じグループにまとめられます。したがって、このシステム値に固有のトピックでは、iSeries ナビゲーターでこのシステム値に関連するすべてのシステム値が説明されます。たとえば、QTIME は iSeries ナビゲーターでは時刻と呼ばれ、QTIME、QDATETIME、QHOUR、QMINUTE、および QSECOND が時刻として使用されます。

2

オペレーティング・システムはもはやこの値を使用しません。今後オペレーティング・システムで使用されないシステム値の全リストについては、廃止システム値を参照してください。

3

iSeries ナビゲーターでは、これはシステム・ディスク・プールの最大使用率 (0 から 100%) のシステム値です。文字ベースのインターフェースでは、このシステム値はディスク・プールの最大許容量に対する下限を指定します。

詳しくは、システム値検索 API を参照してください。



システム値カテゴリー

iSeries^(TM) ナビゲーターは、システム値をカテゴリーにグループ化し、システム値の管理を簡素化します。iSeries^(TM) ナビゲーターを使用して、以下のカテゴリーのシステム値を処理することができます。

30 ページの『i5/OS (TM) システム値: 監査の概要』
監査値を変更する。

31 ページの『i5/OS (TM) システム値: 日時の概要』
日付、時刻、および **▶** タイム・ゾーン情報 **◀** を変更する。

32 ページの『i5/OS (TM) システム値: 装置概要』
装置の自動構成および回復値を変更する。

32 ページの『i5/OS (TM) システム値: インターナショナル概要』
ロケールの設定、および、数値、通貨、日付、時刻の形式を変更する。

34 ページの『i5/OS (TM) システム値: ジョブ概要』
システム・レベルのジョブ限界およびデフォルトのジョブ優先順位を変更する。

35 ページの『i5/OS (TM) システム値: ライブラリー・リスト概要』
デフォルトのシステム・ライブラリー・リストおよびユーザー・ライブラリー・リストを変更する。

36 ページの『i5/OS (TM) システム値: メッセージおよびサービス概要』
メッセージ、ロギング、およびサービス情報を変更する。

37 ページの『i5/OS (TM) システム値: パスワード概要』
パスワードの有効期限と構成規則を変更する。

38 ページの『i5/OS (TM) システム値: パフォーマンス概要』
優先順位、パフォーマンスの調整、およびシステムの処理値を変更する。

40 ページの『i5/OS (TM) システム値: 電源制御概要』
電源機構値を変更する。

41 ページの『i5/OS (TM) システム値: 印刷概要』
基本印刷値およびプリンター出力の形式を変更する。

41 ページの『i5/OS (TM) システム値: 再始動概要』
再始動に影響を与える初期セットアップ値と設定値を変更する。

43 ページの『i5/OS (TM) システム値: 保管および復元概要』
復元および **▶** 保管の値 **◀** を変更する。

44 ページの『i5/OS (TM) システム値: 機密保護概要』
オブジェクト、ユーザー、およびシステムの機密保護値を変更する。

45 ページの『i5/OS (TM) システム値: サインオン概要』
サインオン値を変更する。

46 ページの『i5/OS (TM) システム値: 記憶域の概要』
システム記憶域の値を変更する。

47 ページの『i5/OS (TM) システム値: システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト概要』
システム識別情報を表示し、システム・レベル値を変更する。

以上のシステム値を使用して、システムを制御することができます。適切な設定を行うことによる利点は多々あります。たとえば、特定のジョブに割り振る記憶域の量をコントロールできます。これにより、ジョブの優先順位付けができます。また、システム値の組み合わせを使用してシステムの機密保護を制御することができます。

▶ これらのシステム値カテゴリーは、文字ベースのインターフェースで使用されるカテゴリーとは異なります。iSeries (TM) ナビゲーター・カテゴリーと文字ベースのカテゴリー (タイプ (*TYPE) パラメーターでグループ化される) を比較するには、文字ベースのタイプと iSeries (TM) ナビゲーター・カテゴリーを参照してください。 **◀**

▶ 今後オペレーティング・システムで使用されないシステム値について詳しくは、廃止システム値を参照してください。 **◀**

システム値について詳しくは、5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』を参照してください。

i5/OS (TM) システム値: 監査の概要

i5/OS (TM) 監査システム値を使用して、さまざまな監査およびその他のレコード保持イベントを制御します。システム値の監査カテゴリにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス (Configuration and Services)」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能な監査システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

▶▶ 監査システム値を表示するには、すべてのオブジェクト (*ALLOBJ) または監査 (*AUDIT) 特殊権限を持つ必要があります。適切な権限がない場合、システム値の監査カテゴリは使用不可です。iSeries ナビゲーターで、監査カテゴリは表示されません。文字ベースのインターフェースで、監査システム値は、使用不可 (*NOTAVL) の値を表示します。ただし、QAUDFRCLVL は例外で -1 を表示します。したがって、監査システム値を表示するには、すべてのオブジェクト (*ALLOBJ) または監査 (*AUDIT) 特殊権限を、監査システム値を変更するには、監査 (*AUDIT) 権限が必要です。◀◀

監査システム値:

iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
アクション監査を活動化する	アクション監査を設定し、特定機能の監査レベルを指定する。	QAUDCTL QAUDLVL ▶▶ QAUDLVL2 ◀◀
監査ジャーナル・エラー・アクション	ジャーナル項目を送る時に発生したエラーにより、監査レコードを監査ジャーナルに送れない場合のシステムの処置を指定する。	QAUDENDACN
補助記憶域に書き込む前のジャーナル項目の最大数	ジャーナル項目データが補助記憶域に移される前に監査ジャーナルに書き込まれるジャーナル項目の数を設定する。	QAUDFRCLVL
新規作成オブジェクトのデフォルト監査	ライブラリーに新規オブジェクトが作成される時点で使用されるデフォルトのオブジェクト監査値を設定する。	QCRTOBJAUD

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリ』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: 日時の概要

i5/OS (TM) 日時システム値を使用して、システムの日付、時刻、およびタイムゾーン情報を制御します。システム値の日時カテゴリにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能な日時システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

日時システム値:

iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
システム日付	システムの日付を設定する。	➤ QDATETIME、❄ QCENTURY、QDAYOFWEEK、QDATE、QDAY、QMONTH、QYEAR
うるう年の調整	うるう年の調整を指定する。	QLEAPADJ
時刻	時刻を指定する。	➤ QDATETIME、❄ QTIME、QHOUR、QMINUTE、QSECOND
UTC からのオフセット	協定世界時 (UTC) からのオフセットを設定する。	QUTCOFFSET
➤ タイム・ゾーン	システムのタイム・ゾーンを指定する。	QTIMZON ❄
➤ 時刻調整	時刻保守に使用する時刻調整ソフトウェアを識別する。	QTIMADJ ❄

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

時間管理

➤ 時間管理のタイム・ゾーン機能および時刻調整機能について確認するには、このトピックを表示します。時間管理を使用して、タイム・ゾーン (QTIMZON) および時刻調整 (QTIMADJ) システム値を処理します。❄

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: 装置概要

Oi5/OS (TM) 「装置」システム値を使用して、システム装置の自動構成および回復値を制御します。システム値の装置カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの**構成およびサービス**を選択します。次に、「システム値」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能な装置システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

装置システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
ローカル制御装置と装置	ローカル制御装置と装置の自動構成を設定する。	QAUTOCFG
装置命名規則	装置命名規則を指定する。	QDEVNAMING
遠隔制御装置と装置	遠隔制御装置と装置の自動構成を設定する。	QAUTORMT
パススルー装置と Telnet	パススルー装置と Telnet の自動構成を設定する。	QAUTOVRT
ワークステーションで装置エラーが起こった時に行なわれるアクション	エラーが発生したときにとる処置を設定する。	QDEVRCYACN

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: インターナショナル概要

i5/OS (TM) インターナショナル・システム値を使用して、システムのロケール値、および、数値、通貨、日付、および時刻が表示される方法を表示/変更します。システム値のインターナショナル・カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの**「構成およびサービス」**を選択します。次に、「システム値」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能なインターナショナル・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

インターナショナル・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
日時	日付を表示するとき使用される形式を設定する。日付値と時刻値を分離するのに使用する記号を指定することもできる。	QDATFMT、QTIMSEP、QDATSEP
10 進数の形式	数値を表示するとき使用される形式を指定する。	QDECFMT
通貨記号	通貨値を表示するとき使用される記号を設定する。	QCURSYM
言語	システムで使用される言語を設定する。	QLANGID
国/地域	システムによって使用される国/地域を指定します。	QCNTYID
デフォルト・システム・キーボード	システムで使用されるキーボード・タイプを設定する。	QKBDTYPE
コード化文字セット ID	コード化文字セット識別コードを指定する。	QCCSID
図形文字セット/コード・ページ	システムの図形文字セットとコード・ページを設定する。	QCHRID
文字識別コード制御	文字識別コード制御を設定する。	QCHRIDCTL
ソート順序	システムで使用されるソート順序を指定する。	QSRTSEQ
コード化フォント名	システムで使用されるコード化フォント名を指定する。	QIGCCDEFNT
コード化フォント・ポイント・サイズ	システムで使用されるコード化フォント・ポイント・サイズを指定する。	QIGCFNTSIZ
ロケール	システムで使用されるロケールを指定する。	QLOCALE
ロケールを基にしたジョブ属性の設定	ロケールを基にした特定のジョブ属性を設定する。	QSETJOBATR

DBCS 可能

システムの 2 バイト文字セット (DBCS) バージョンをインストールするかどうかを指定する。 QIGC

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値については、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: ジョブ概要

i5/OS (TM) ジョブ・システム値を使用して、システム・レベルのジョブ限度および他のジョブ・デフォルトを表示または変更します。システム値のジョブ・カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なジョブ・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

ジョブ・システム値:

iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
再始動での記憶域の割り振り	活動ジョブおよびジョブ合計で、再始動時に使用される記憶域を指定する。	QACTJOB、QTOTJOB
必要な記憶域の追加割り振り	必要に応じて割り振られる記憶域を指定する。	QADLACTJ、QADLTOTJ
ジョブの最大数	ジョブの最大数を指定する。	QMAXJOB
プリンター出力ブロックの初期サイズ	内部制御ブロック (SCB) の初期サイズを制御する。	QJOBSPLA
プリンター出力ファイルの最大数	1 つのジョブに使用が許可されるプリンター出力ファイルの最大数を指定する。	QMAXSPLF
ジョブ・ログの最大サイズ	ジョブ・ログの最大サイズを指定する。	QJOBMSGQMX
最大サイズに達したとき	ジョブ・ログの最大サイズに達したときにとる処置を指定する。	QJOBMSGQFL

非活動ジョブのタイムアウト・インターバル	非活動ジョブのタイムアウト・インターバルを指定する。	QINACTITV
ジョブがタイムアウトになったとき	非活動ジョブがタイムアウトになったときとる処置を指定する。	QINACTMSGQ
切断されたジョブのタイムアウト・インターバル	切断されたジョブのタイムアウト・インターバルを指定する。	QDSCJOBITV
マルチスレッド・ジョブ内の機能がスレッド・セーフでないとき	機能がスレッド・セーフでないときとる処置を指定する。	QMLTTHDACN
ジョブ終了後プリンター出力切り離し	スプール・ファイルをジョブと共に保持するか、それともジョブから切り離すかを指定します。	QSPLFACN
▶▶ 即時終了の最大時間	ジョブの即時終了時のアプリケーション・クリーンアップ時間の最大長さを指定します。	QENDJOB LMT ▶▶

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: ライブラリー・リスト概要

i5/OS (TM) ライブラリー・リスト・システム値を使用して、システム・レベルのジョブ限度および他のジョブ・デフォルトを表示または変更します。システム値のライブラリー・リスト・カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気づきになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能なライブラリー・リスト・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

ライブラリー・リスト・システム値:

iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
システム・ライブラリー・リスト	ジョブのライブラリー・リストのシステム部分の初期値を指定する。	QSYSLIBL

ユーザー・ライブラリー・リスト ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分の初期値を指定する。 QUSRLIBL

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: メッセージおよびサービス概要

i5/OS (TM) メッセージおよびサービス・システム値を使用して、システムのメッセージ、ロギング、およびサービス情報を変更し、表示します。システム値のメッセージおよびサービス・カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用語にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能なメッセージおよびサービス・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

メッセージおよびサービス・システム値:

iSeries ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
活動記録ログ内のレコードの最大数	活動記録ログ内の最大レコード数を指定する。	QHSTLOGSIZ
状況メッセージの表示	状況メッセージを文字ベース・インターフェースの 24 行目に表示するかどうかを指定する。	QSTSMMSG
メッセージ待ち行列	回線、制御装置、および装置用のメッセージ待ち行列を指定する。	QCFGMSGQ
ジャーナル会計情報	ジョブ使用量、プリンター出力、およびプリンター使用量をジャーナル処理するかどうかを指定する。	QACGLVL
問題ログ・フィルター	問題ログをフィルターに掛けるかどうかを指定する。	QPRBFTR
最小保持期間	問題ログ項目の最小保持期間を設定する。	QPRBHDITV

システムで検出されたソフトウェア問題のログ記録	システムで検出されたソフトウェア問題をログに記録するかどうかを指定する。	QSFWERRLOG
モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログ	モニターされないエスケープ・メッセージの保守ログを作成するかどうかを指定する。	QSRVDMP
システムの遠隔保守の許可	システムの遠隔保守を指定する。	QRMTSRVATR

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値については、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: パスワード概要

i5/OS (TM) パスワード・システム値を使用して、パスワード値およびパスワード制約事項を制御します。システム値のパスワード・カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries ナビゲーターで使用可能なパスワード・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

パスワード・システム値: iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値 の説明	文字ベースのインターフェース での名前
パスワード・レベル	システムのパスワード・レベルを設定する。	QPWDLVL
パスワードの最小長	パスワードの最小長を設定する。	QPWDMINLEN
パスワードの最大長	パスワードの最大長を設定する。	QPWDMAXLEN
数字が少なくとも 1 つ必要	システムで使用されるパスワードが数字を少なくとも 1 つ使用するよう設定する。	QPWDRQDDGT

連続数字の制限	システムで使用されるパスワードが連続した数字の使用を制限するように設定する。	QPWDLMTAJC
制限される文字	制限される文字を指定する。	QPWDLMTCHR
反復文字の制限	反復文字を制限するかどうかを指定する。	QPWDLMTREP
各位置に異なる文字が必要	システムで使用されるパスワードが、各位置に異なる文字を使用するように設定する。	QPWDPOSdif
パスワードの再利用サイクル	同じパスワードが再利用できる時期を指定する。	QPWDRQDDif
パスワード有効期限	パスワードが失効する時期を指定する。	QPWDEXPITV
iSeries (TM) ナビゲーターにはない	ユーザー作成のプログラムがパスワードに追加の妥当性検査を行うかどうかを指定する。	QPWDVLDPGM

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

58 ページの『システム・アクセス・レベルの保護』

サインオン・アクセスを制限するためにパスワード・システム値の設定値をどう構成すればよいか、説明します。これは、ユーザーのセキュリティー・ポリシーを強化し保護するもう 1 つの方法です。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: パフォーマンス概要

i5/OS (TM) パフォーマンス・システム値を使用して、優先順位、パフォーマンスの調整、およびシステムの処理値を表示し、変更します。システム値のパフォーマンス・カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能なパフォーマンス・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

パフォーマンス・システム値:

iSeries ^(TM) ナビゲーターでの名前	システム値 の説明	文字ベースのインターフェース での名前
対話型ジョブのジョブ優先順位の動的調整	対話型ジョブのジョブ優先順位を設定する。	QDYNPTYADJ
優先順位バンド内でのジョブ優先順位の動的調整	優先順位バンド内のジョブ優先順位が動的に調整されるように設定する。	QDYNPTYSCD
記憶域プールと活動レベルの自動調整	記憶域プールと活動レベルの自動調整をいつ行うかを指定する。	QPFRADJ
有資格スレッドの最大数	有資格スレッドの最大数を指定する。	QMAXACTLVL
マシン記憶域プール・サイズ	マシン記憶域プールのサイズを指定する。	QMCHPOOL
基本記憶域プールの最小サイズ	最小の基本記憶域プールを指定する。	QBASPOOL
基本記憶域プール有資格スレッドの最大数	有資格スレッドの最大数を指定する。	QBASACTLVL
タイム・スライスの終わりでの対話型ジョブの基本プールへの移動	タイム・スライスの終わりで対話型ジョブを基本プールに移動するかどうかを指定する。	QTSEPOOL
通信構成の回復	回復の試行を行うかどうか、何回試行を行うかを指定する。	QCMNRCYLMT
再始動での通信アービター・ジョブ	制御装置および装置のための作業を処理するのに使用可能な通信アービター・システム・ジョブの数を指定する。	QCMNARB
使用可能な表示装置パススルー・サーバー・ジョブ	i5/OS ^(TM) 表示装置パススルー、iSeries ^(TM) アクセス・ワークステーション機能 (WSF)、およびプログラマブル・ワークステーション上の他の 5250 エミュレーション・プログラムを処理するために使用可能な、ターゲット表示装置パススルー・サーバー・ジョブの数を指定する。	QPASTHRSVR
Query と索引の並列処理	並列処理を使用するかどうか、何のために使用するかを指定する。	QQRVDEGREE
データベース Query の時間制限	データベース Query の時間制限を設定する。	QQRVTIMLMT
ユーザー・ジョブのライブラリー検索リスト内でのライブラリーのロック	検索リスト内のライブラリーを他のジョブが削除または名前変更しないようにする。	QLIBLCKLVL

バックグラウンドでのデータベース統計収集許可	どんな要求がシステム・ジョブ QDBFSTCCOL によって処理されることを許されるかを指定する。	QDBFSTCCOL
▶ スレッド類縁性	2 次スレッドに初期スレッドと同じプロセッサ・グループおよびメモリーへの類縁性を持たせるかどうかを指定する。	QTHDRSCAFN ◀
▶ スレッド・リソースの自動調整	システムが現在システムで実行中のスレッドの類縁性を動的に調整するかどうかを指定する。	QTHDRSCADJ ◀

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値については、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: 電源制御概要

i5/OS (TM) 電源制御システム値を使用して、システムの電源機構値を制御します。システム値の電源制御カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能な電源制御システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

電源制御システム値:

iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベース・インターフェースでの名前
電源障害が発生したとき	電源障害が発生したときにとる処置を指定する。	QUPSDLYTIM
メッセージ待ち行列とライブラリー	メッセージ待ち行列とライブラリーを指定する。	QUPSMMSGQ

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値については、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: 印刷概要

i5/OS (TM) 印刷システム値を使用して、システムのプリンター出力がフォーマット設定される方法、および、デフォルトの装置記述を制御します。システム値の印刷カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能な印刷システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

印刷システム値:

iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
デフォルト印刷装置	システムのデフォルト印刷装置を設定する。	QPRTDEV
印刷キーを使用するときの形式	印刷キーを使用するときにはボーダー情報またはヘッダー情報を組み込むかどうかを指定する。	QPRTKEYFMT
印刷ページ・フッター	システムのページ・フッターを指定する。	QPRTTXT

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: 再始動概要

i5/OS (TM) 再始動システム値を使用して、システムを再始動する時期を変更し、システムが再始動したときに何が発生したかを表示できます。これらのシステム値には、IPL (初期プログラム・ロード) に適用され

る値が含まれます。システム値の再始動カテゴリにアクセスするには、iSeries^(TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

OS/400 の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries^(TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries^(TM) ナビゲーターで使用可能な再始動システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

再始動システム値: iSeries ^(TM) ナビゲーターでの名前	システム値 の説明	文字ベースのインターフェース での名前
再始動のタイプ	システムの再始動のタイプを指定する。	QIPLTYPE
電源障害後の自動再始動の許可	電源障害が発生したときに自動再始動を許可するかどうかを指定する。	QPWRRSTIPL
遠隔パワーオンおよび再始動の許可	遠隔パワーオンおよび再始動を許可するかどうかを指定する。	QRMTIPL
スケジュール再始動の許可	スケジュールされた再始動の日付を設定する。	QIPLDATTIM
即時シャットダウンの最大時間	即時シャットダウンを実行するまでの時間制限を指定する。	QPWRDWNLMT
システムをセットアップするための開始プログラム	システムをセットアップするために使用するプログラムを指定する。	QSTRUPPGM
制御サブシステム/ライブラリー	制御サブシステムとライブラリーを指定する。	QCTLSBSD
コンソール問題が発生した場合	コンソール問題が発生したときにとる処置を指定する。	QSCPFCONS
再始動が完了する前のデータベース回復の待機	再始動が完了する前にデータベース回復を待機するかどうかを指定する。	QDBRCVYWT
直前のシステム終了の状況	直前のシステム終了の状況を示す。	QABNORMSW
直前の再始動のタイプ	直前の再始動が行われた方法を指定する。	QIPLSTS
開始済みの印刷装置	直前の再始動時に印刷装置が開始されたかどうかを指定する。	QSTRPRTWTR

iSeries^(TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS^(TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries^(TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS^(TM) シス

テム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリ』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: 保管および復元概要

i5/OS (TM) 保管および復元システム値を使用して、特定の復元プロパティを制御します。システム値の保管および復元カテゴリにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能な保管および復元システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

保管および復元システム値: iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値 の説明	文字ベースのインターフェース での名前
復元中のオブジェクトの変換	復元する前に変換すべきオブジェクトを指定する。	QFRCCVNRST
機密オブジェクトの復元の許可	復元するオブジェクト、および、ソフトウェア修正をインストール中に復元できるかどうかを指定する。	QALWOBJRST
復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査	シグニチャーなし、またはシグニチャー付きだが無効なオブジェクトを、復元するかどうかを指定する。	QVIFYOBJRST
▶ アクセス・パスの保管	アクセス・パスを保管するかどうかを指定する。	QSAVACCPH ◀

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

50 ページの『復元操作におけるシステム値設定の影響』

復元操作が正しく実行されるようにするために、別のシステム値の設定値を調べる方法についての情報があります。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリ』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: 機密保護概要

i5/OS (TM) 機密保護システム値を使用して、オブジェクト、ユーザー、および機密保護システム値をコントロールします。システム値の機密保護カテゴリにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能な機密保護システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

機密保護システム値:

iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
機密保護レベル	システムの機密保護のレベルを設定する。	QSECURITY
サーバー機密保護情報が保存されるようにする	保存するサーバー機密保護情報を設定する。	QRETSVRSEC
呼び出し側プログラムからの借用権限をプログラムが使用できるようにするユーザー	借用権限を持つプログラムを処理できるユーザーを指定する。	QUSEADPAUT
QSYS.LIB ファイル・システムに新規に作成されたオブジェクトのデフォルト権限	権限を指定しないオブジェクトのデフォルト権限を指定する。	QCRTAUT
書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされた記憶域の使用の許可	共用記憶域またはマップされた記憶域のストリーム・ファイルをユーザーが使用してよいかどうかを指定する。	QSHRMEMCTL
監査対象外オブジェクト...	権限検査をう回し、監査対象外とするユーザー・ドメイン・オブジェクトをどこで許可するかを指定する。	QALWUSRDMN
登録済み出口プログラムを使用したルート (/)、QOpenSys、およびユーザー定義のファイル・システムのスキャン	ファイル・システムをスキャンするかどうかを指定する。	QSCANFS
スキャン制御	スキャン制御オプションを指定する。	QSCANFSCTL

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries[™] ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

iSeries 機密保護解説書



➤ 機密保護の一般情報および機密保護システム値について詳しくは、この資料を参照してください。
◀

i5/OS[™] システム値: サインオン概要

i5/OS[™] サインオン・システム値を使用して、全ユーザーのためのサインオン値およびその他の初期値をコントロールします。システム値のサインオン・カテゴリーにアクセスするには、iSeries[™] ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS[™] の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries[™] ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries[™] ナビゲーターで使用可能なサインオン・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

サインオン・システム値:

iSeries [™] ナビゲーターでの名前	システム値 の説明	文字ベースのインターフェース での名前
正しくないサインオンの試み	正しくないサインオンの試みをユーザーが何回試みることができるかを指定する。	QMAXSIGN
最大値に達したとき	サインオン試行の最大許容回数に達したときにとる処置を指定する。	QMAXSGNACN
サインオン情報の表示	ユーザーがシステムにサインオンするときにサインオン情報を表示するかどうかを指定する。	QDSPSGNINF
特権ユーザーを特定の装置セッションに制限する	すべてのオブジェクト (*ALLOBJ) およびサービス (*SERVICE) 特殊権限を持つユーザーが、特定のワークステーションに対する明示的な権限を持つ必要があるかどうかを指定する。	QLMTSECOFR
各ユーザーを 1 つの装置セッションに制限する	装置セッションの限度を設定する。	QLMTDEVSSN
遠隔サインオン	遠隔サインオンに関する情報を指定する。	QRMTSIGN

iSeries[™] ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: 記憶域の概要

i5/OS (TM) 記憶域システム値を使用して、システムの記憶域動作値を変更します。システム値の記憶域カテゴリーにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能な記憶域システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

記憶域システム値:

iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値の説明	文字ベースのインターフェースでの名前
システム・ディスク・プールの最大使用量	使用できる記憶域スペースの最大量を指定する。	QSTGLOWLMT
最大使用量に達したとき	記憶域プールが最大サイズに達したときにとる処置を指定する。	QSTGLOWACN
未使用プリンター出力記憶域の自動クリーンアップ	未使用プリンター出力記憶域の自動クリーンアップを設定し、保存期間を指定する。	QRCLSPLSTG

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

i5/OS (TM) システム値: システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト 概要

i5/OS (TM) システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト・システム値を使用して、システム・レベル値を制御します。システム値のシステム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト・カテゴリにアクセスするには、iSeries (TM) ナビゲーターの「構成およびサービス」を選択します。次に、「システム値 (System Values)」を選択します。

i5/OS (TM) の文字ベースのインターフェースに慣れている場合は、システム値を説明するのに iSeries (TM) ナビゲーターが使用している説明用の名前にお気付きになるでしょう。iSeries (TM) ナビゲーターで使用可能なシステム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト・システム値 (および、対応する文字ベースのインターフェース) の概要については、次の表を参照してください。リンクに従って、各システム値の詳細を参照してください。

システム・デフォルトおよびユーザー・デフォルト・システム値: iSeries (TM) ナビゲーターでの名前	システム値 の説明	文字ベースのインターフェース での名前
型式番号	システムの型式番号を表示する。	QMODEL
シリアル番号	システムのシリアル番号を表示する。	QSRLNBR
プロセッサのフィーチャー・コード	システムのプロセッサのフィーチャー・コードを表示する。	QPRCFEAT
コンソール名	システムのコンソール名を表示する。	QCONSOLE
操作援助レベル	システムの操作援助レベルを設定する。	QASTLVL
アテンション・プログラム	システムで使用されるアテンション・プログラムを指定する。	QATNPGM
デフォルト・ユーザー環境	デフォルト・ユーザー環境を設定する。	QSPCENV
先行入力機能の使用	先行入力機能を設定する。また、アテンション・キー・バッファリング・オプションの使用を選択することもできます。	QKBDDBUF
プロセッサ・マルチタスキング	プロセッサ・マルチタスキングをオンまたはオフにするか、システムが決定するかを指定する。	QPRCMLTTSK

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値について詳しくは、以下のセクションを参照してください。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) シス

テム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

システム値の概念

システム値の設定値を処理する前に、次の概念をよく知っておく必要があります。

- 『機密保護関連システム値のロック機能』
システム値をロックしたりアンロックしたりする方法について説明します。一部のシステム値のみ、ロックすることができます。ロック機能について、どのシステム値をロックできるか、およびロックとアンロックを行う方法を説明します。
- 50 ページの『復元操作におけるシステム値設定の影響』
復元操作において複数のシステム値が互換性を保てるように、正しくシステム値を設定する方法を説明します。また、このトピックでは、復元が実行される際に 3 つの復元システム値がどのように一緒に作用するか説明します。

機密保護関連システム値のロック機能

ほとんどの機密保護システム値は、機密保護管理者 (*SECADM) 特殊権限とすべてのオブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限とを合わせ持つユーザーのみが変更することができます。通常の運用中にこれらのユーザーさえも機密保護システム値を変更できないようにするために、システム保守ツール (SST) 専用保守ツール (DST) は、これらの機密保護値をロックするオプションを提供します。

デフォルト値ははいです。つまり、ユーザーは機密保護関連システム値を変更できます。

次のテーブルに、このオプションによって影響を受けるシステム値を示します (iSeries (TM) ナビゲーターでの名前と文字ベースの名前の両方を示します)。

ロック可能なシステム値

監査システム値

アクション監査の活動化

QAUDLVL

▶▶ QAUDLVL2 ◀◀

QAUDCTL

オブジェクト監査の活動化

監査ジャーナル・エラー・アクション

QAUDENACN

新規作成オブジェクトのデフォルト監査

QCRTOBJAUD

補助記憶域内のジャーナル項目の最大数

QAUDFRCLVL

装置システム値

ローカル制御装置と装置

QAUTOCFG

パススルー装置および Telnet

QAUTOVRT

装置エラーが発生したときとる処置

QDEVRCYACN

遠隔制御装置と装置

QAUTORMT

ジョブ・システム値

タイムアウト・インターバル

QDSCJOBITV

ジョブがタイムアウトになったとき

QINACTMSGQ

パスワード・システム値

パスワード有効期限

QPWDEXPITV

連続する数字の制限

QPWDLMTAJC

制限付き文字

QPWDLMTCHR

反復文字の制限

QPWDLMTREP

ロック可能なシステム値

パスワード・レベル	QPWDLVL
最大パスワード長	QPWDMAXLEN
最小パスワード長	QPWDMINLEN
各桁に新しい文字が必要	QPWDPOSDIF
最低 1 桁の数字が必要	QPWDRQDDGT
パスワードの再使用サイクル	QPWDRQDDIF
パスワード妥当性検査プログラム	QPWDVLDPGM
メッセージおよびサービス・システム値	
システムの遠隔保守の許可	QRMTSRVATR
保管および復元システム値	
復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査	QVFYOBJRST
復元中のオブジェクトの変換	QFRCCVNRST
機密オブジェクトの復元の許可	QALWOBJRST
機密保護システム値	
機密保護レベル	QSECURITY
サーバーの機密保護情報保存の許可	QRETSVRSEC
借用権限を持つプログラムを処理できるユーザー	QUSEADPAUT
QSYS.LIB ファイル・システムの新規作成オブジェクトのデフォルト権限	QCRTAUT
書き込み能力を持つ共用記憶域またはマップされた記憶域の使用の許可	QSHRMEMCTL
監査可能でないオブジェクト...	QALWUSRDMN
▶▶ 登録済み出口プログラムを使用したルート (/)、QOpenSys、およびユーザー定義のファイル・システムのスキャン	QSCANFS ◀◀
▶▶ スキャン制御	QSCANFSCTL ◀◀
サインオン・システム値	
遠隔サインオン	QRMTSIGN
サインオン情報の表示	QDSPSGNINF
特権ユーザーを特定装置セッションに制限する	QLMTSECOFR
各ユーザーを 1 装置セッションに限定する	QLMTDEVSSN
正しくないサインオンの試み	QMAXSIGN
最大回数に達したとき	QMAXSGNACN

機密保護関連システム値の変更の許可にいいえを指定すると、ユーザーは機密保護関連システム値を変更できません。機密保護関連システム値を変更する必要がある場合は、SST で「機密保護関連システム値の変更の許可」パラメーターをはいに変更する必要があります。

機密保護関連システム値の変更の許可にはいを指定すると、適切な権限を持つユーザーは機密保護関連システム値を変更できます。機密保護関連システム値はアンロックされますが、これらを変更するにはやはり機密保護管理者 (*SECADM) 特殊権限とすべてのオブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限とを合わせ持つことが必要です。機密保護関連システム値をユーザーに変更させたくない場合は、SST で「機密保護関連システム値の変更の許可」パラメーターをいいえに変更する必要があります。

詳細情報の入手

54 ページの『機密保護関連システム値のロックおよびアンロック』

「システム保守ツールの開始 (STRSST)」コマンドを使用して、機密保護関連システム値をロックしたりアンロックしたりする方法について説明します。▶▶ リカバリー・モードでは、専用保守ツール (STRDST) を使用して機密保護関連システム値のロックとアンロックを行う必要があります。◀◀

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

復元操作におけるシステム値設定の影響

復元操作を準備するときは、以下のシステム値がオブジェクトの復元にどのように一緒に作用するかをよく理解することが重要です。

- 復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査 (QVfyOBRST)
- 復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST)
- 機密オブジェクトの復元の許可 (QALWOBJRST)

あるオブジェクトをシステムに復元しようとする試みがなされる時、これら 3 つのシステム値は一緒になってフィルターのように作用し、そのオブジェクトを復元してよいか、あるいは復元中に変換を行うか、判別します。第 1 のフィルターは、復元時のオブジェクト検査 (QVfyOBRST) システム値です。このシステム値は、電子的なサインの対象となるオブジェクトの復元を制御するために使用されます。2 番目のフィルターは、復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST) システム値です。このシステム値により、ユーザーは、プログラム、サービス・プログラム、SQL パッケージ、およびモジュール・オブジェクトを、復元中に変換するかどうか指定することができます。また、一部のオブジェクトが復元されないようにすることもできます。第 1 と第 2 のフィルターを通過することができたオブジェクトだけが、第 3 のフィルターによって処理されます。第 3 フィルターは、機密オブジェクトの復元の許可 (QALWOBJRST) システム値です。機密属性を持ったオブジェクトを復元できるかどうかを指定します。

復元操作が実行される際には、**強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)** パラメーターと**復元中のオブジェクト変換**システム値に、互換性のある設定値を設定しなければなりません。さもないと、エラー・メッセージを受け取って復元が失敗します。以下のテーブルは、どの設定値に互換性があり、どの設定値は失敗するかを示しています。

FRCOBJCVN パラメーター	QFRCCVNRST システム値	復元コマンドの結果
*SYSVAL	0、1、2、3、4、5、6、または 7	復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST) システム値が使用される。
*NO	0	オブジェクトは変換されず、すべてが変換なしに復元される。
*NO	1	妥当性検査エラーがあるオブジェクトだけが変換され、他はすべて変換なしに復元される。
*NO	2 から 7	互換性はない。システム管理者にエラー・メッセージが送られ、何も復元も変換もされない。
*YES *RQD	0、1、または 2	妥当性検査エラーがあるオブジェクト、または現行リリースで使用するために変換が必要なオブジェクトだけが変換される。

FRCOBJCVN パラメーター	QFRCCVNRST システム値	復元コマンドの結果
*YES *RQD	3 から 7	互換性はない。システム管理者にエラー・メッセージが送られ、何も復元も変換もされない。
*YES *ALL	0、1、2、3、4、5、6 または 7	FRCOBJCVN (*YES *ALL) は、QFRCCVNRST 値がどうであってもオーバーライドし、変換が正常に行われた場合はすべてのオブジェクトが変換され復元される。

オブジェクトが正常に復元されるようにするには、オブジェクトは、復元操作中と一緒に作用する次の 3 つのシステム値を通過しなければなりません。すなわち、**復元中のオブジェクト・シグニチャーの検査 (QVFYOBJRST)**、**復元中の強制変換 (QFRCCVNRST)**、および**機密オブジェクトの復元の許可 (QALWOBJRST)**。ただし、**強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)** パラメーターと**復元時の強制変換 (QFRCCVNRST)** システム値とが互換性がない場合は、変換は行われず何も復元されません。

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN)

強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN) パラメーターに指定できるのは以下の値です。

- ***SYSVAL**
オブジェクトは、**復元時の強制変換 (QFRCCVNRST)** システム値の値を基にして変換される。これはデフォルト値です。
- ***YES *ALL**
すべてのオブジェクトは、現行の形式にかかわらず変換される。ただし、マシン変換が必要なデータを持たないオブジェクトの場合は、復元されません。変換が行われると復元操作にかかる時間は増大しますが、これにより、オブジェクトが最初に使用されるときに変換を行う必要がなくなります。この設定値は、**強制オブジェクト変換システム値**をオーバーライドします。
- ***YES *RQD**
オブジェクトは、現行オペレーティング・システムによって使用されるために変換が必要である場合にのみ、変換される。オブジェクトが変換は必要だがマシン変換が必要なデータを持たないという場合は、復元されません。変換が行われると復元操作にかかる時間は増大しますが、これにより、オブジェクトが最初に使用されるときに変換を行う必要がなくなります。
- ***NO**
オブジェクトは、復元操作中に変換されない。

復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST)

次に示すのは、**復元中のオブジェクト変換 (QFRCCVNRST)** システム値に指定できる値です。

- **レベル 0 (0)**
すべてのオブジェクトを変換なしに復元します。
- **レベル 1 (1)**
妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換されます。
- **レベル 2 (2)**
オペレーティング・システムの現行バージョンで使用するには変換する必要があるオブジェクト、および妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換されます。

- **レベル 3 (3)**

改ざんされた疑いのあるオブジェクト、オペレーティング・システムの現行バージョンで使用するには変換する必要があるオブジェクト、および妥当性検査エラーがあるオブジェクトが変換されます。

- **レベル 4 (4)**

妥当性検査エラーがあるか、使用のためには変換が必要であるか、あるいは改ざんされた疑いのあるオブジェクトが変換されます。十分な作成データを含み、有効なデジタル・シグニチャーを持たないオブジェクトも、変換されます。

- **レベル 5 (5)**

妥当性検査エラーがあるか、使用のためには変換が必要であるか、改ざんされた疑いがあるか、あるいは十分な作成データを含むオブジェクトが、変換されます。

- **レベル 6 (6)**

妥当性検査エラーがあるか、使用のためには変換が必要であるか、改ざんされた疑いがあるか、あるいは有効なデジタル・シグニチャーを持たないオブジェクトが、変換されます。

- **レベル 7 (7)**

すべてのオブジェクトが変換されます。

すべてのレベルにおいて、変換の条件に合致するが変換に失敗したオブジェクトは、復元されません。変換する必要がないオブジェクトは、変換なしに復元されます。あるオブジェクトが変換されるときは、そのオブジェクトのデジタル・シグニチャーが除去されます。また、変換されるオブジェクトはユーザー状態に変更され、妥当性検査が訂正され、改ざんされた疑いをかけられることがなくなります。

詳細情報の入手

55 ページの『復元操作システム値の準備』

計画、構成、および復元操作を、正しいシステム値の設定値を指定して行うための情報を見つけることができます。これらのタスクにより、復元操作のシステム値を準備するステップをたどることができます。さらに、復元操作の実行の際には注意すべきその他の予防措置があるため、より詳細な解説書を見つけることができます。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

システム値の管理

システム値の機能を十分に活用するために、多くの作業のいずれかを行うことができます。次に示す作業は、ユーザーがシステム値を管理するのに役立ちます。

- 53 ページの『システム値を比較して更新』

複数のシステム値を比較して更新する方法を見つけることができます。

- 54 ページの『機密保護ウィザードの完了』

このツールを使用して、ユーザーの企業の機密保護レベルに合ったシステム値を設定する方法を計画します。これは特に、パスワード・システム値の設定方法がよくわからない場合に有効です。ウィザードは推奨される設定値を示し、ユーザーが手動でそれらの設定値を構成することができます。

- 54 ページの『機密保護関連システム値のロックおよびアンロック』
システム値をロックしたりアンロックしたりすることにより、機密保護関連のシステム値をさらにコントロールする方法を見つけることができます。
- 55 ページの『復元操作システム値の準備』
システム値は、復元操作においては非常に重要な役割を持っています。復元操作によって影響されるシステム値について計画し構成することは必須です。詳細については、次のトピックを参照してください。
 - 55 ページの『復元操作システム値の計画』
システム値の設定値をどのように構成すべきかを計画するのに役立つ、質問のリストを準備します。これは、復元操作が実行されるときにどのシステム値と一緒に作用するかが不確実な場合に有用です。
 - 56 ページの『復元操作システム値の構成』
復元操作の処理方法に影響のあるシステム値をどう構成するか、説明します。
 - 57 ページの『復元コマンドの実行』
復元コマンドを実行するのに役立つ「バックアップおよび回復の手引き」へのリンクを提供します。復元コマンドによって影響されるシステム値を設定した後は、この資料を参照することが必要になります。この資料は、オブジェクトを復元する際に行う必要があるその他のステップについて説明しています。システム値は、復元処理の一部に過ぎません。
- システム値検索 (QWCRSVAL) API
システム値検索 (QWCRSVAL) API を使用して、システム値の長さの仕様を見つけます。
- 57 ページの『システム値の保管』
システム値を保管する方法について説明します。システム値を変更する度に、システム値の設定を保管する必要があります。
- 58 ページの『システム・アクセス・レベルの保護』
サインオン・アクセスを保護するために、すべてのパスワード・システム値がどのように一緒に作用するか、詳細を説明します。さらに、中程度に厳格な企業において推奨される設定値を示し、ユーザーはそれらの設定値を自社の機密保護レベルに合うように変更することができます。
- 60 ページの『システム値インベントリーの処理』
システム値インベントリーを処理できる方法の詳細を説明します。

➤ また、Web 上の iSeries (TM) ナビゲーター・タスクを使用してシステム値を管理できます。このタスクでは、Web ブラウザーを使用してシステム値を処理できます。iSeries (TM) ナビゲーターのシステム値機能だけでなく、時間管理機能も使用できるため、タイム・ゾーン (QTIMZON) システム値および時間調整 (QTIMADJ) システム値の処理も可能になります。◀

システム値を比較して更新

iSeries (TM) ナビゲーターを使用して、ネットワーク内の複数のシステムにある 1 ページの『i5/OS (TM) システム値』を比較し、更新してください。管理者として、複数のシステムにまたがるシステム値を管理することができます。モデル・システムのシステム値を、複数のターゲット・システムのシステム値と比較し、ターゲット・システムの値をモデル・システムの値に一致するように更新することができます。また、必要があれば、ターゲット・システムの値を実際に変更するのではなく、モデル・システムとターゲット・システムの値を差を示すリストを作成することもできます。

ターゲット・システムに現行システム値インベントリーがあることを確認してください。モデル・システムのインベントリーを収集していれば、モデル・システムをターゲット・システムにすることができます。60 ページの『システム値インベントリーの処理』を PC ファイルにエクスポートすることもできます。こ

これらの PC ファイルにはインベントリーのヒストリーがあって、データをスプレッドシート・プログラムまたはその他のアプリケーションで処理することができます。

システム値を比較し、更新する方法については、次のステップに従ってください。

1. iSeries (TM) ナビゲーターで、「マネージメント・セントラル」→「エンドポイント・システム」、「システム・グループ」、または「ユーザー接続」を展開します。
2. 「エンドポイント・システム」または「システム・グループ」を右クリックして、「システム値」、そして「比較と更新 (Compare and Update)」を選択します。
3. 「比較と更新」ダイアログを完了します。
 - ターゲット・システム (単数または複数) を比較する対象となるモデル・システムの名前を選択します。
 - 比較に組み込みたいカテゴリおよび値を選択します。ターゲット・システム上の更新したいそれぞれのシステム値ごとに、「更新」列から項目を選択します。
 - 選択されたターゲット・システム (単数または複数) を検証します。
4. 「OK」をクリックして、作業を即時に行うか、または「スケジュール」をクリックしてこの作業を後で実行させます。

機密保護ウィザードの完了

機密保護関連システム値を正しく設定する方法がよくわからない場合、あるいは現行の機密保護ポリシーを調べたい場合は、機密保護ウィザードを完了します。このウィザードはユーザーのシステムを、貴社に合った正しいシステム値設定に自動的に構成します。ユーザーが構成を行うために、多くのオプションが提供されます。以下は、ウィザードがユーザーに与えるオプションの一部です。

- ユーザーが提供する情報を基にして、ユーザーのシステムのシステム値を自動的に構成する
- 報告書を保管して、後日ユーザーがシステムを構成できるようにする
- ユーザーのシステムに推奨されるシステム値の設定値を、それら設定値の含意とともに組み込んだ報告書を印刷する

機密保護ウィザードにアクセスするには、次のステップを完了します。

1. iSeries (TM) ナビゲーターでシステムを選択します。
2. 「機密保護」を右クリックします。
3. 「構成」を選択します。
4. その後で、機密保護ウィザードを完了します。

機密保護関連システム値のロックおよびアンロック

通常の運用中にユーザーが機密保護関連システム値を変更できないようにするために、システム保守ツール (SST) と専用保守ツール (DST) は、これらの機密保護値をロックするオプションを提供します。リカバリー・モードでは SST は使用できないので、このモードでは DST を使用する必要があります。それ以外の場合は、SST を使用して機密保護関連システム値をロックまたはアンロックします。

システム保守ツールの開始 (STRSST) コマンドを使用して機密保護関連システム値をロックしたりアンロックするには、次のステップに従います。

1. 文字ベースのインターフェースをオープンします。
2. コマンド行に、STRSST と入力します。
3. 保守ツールのユーザー名とパスワードを入力します。

4. オプション 7 (システム機密保護の処理) を選択します。
5. 機密保護関連システム値をアンロックするには「機密保護関連システム値の変更の許可」パラメーターに 1 を入力し、ロックするには 2 を入力します。

注: 機密保護関連システム値をロックまたはアンロックするには、保守ツール・プロファイルおよびパスワードを持っていることが必要です。

▶ システム・リカバリーの有人 IPL 時に専用保守ツール (DST) を使用して機密保護関連システム値のロックまたはアンロックを行うには、次のステップを実行します。

1. 「IPL」画面または「システムのインストール」画面で、オプション 3 (専用保守ツールの使用) を選択します。

注: このステップでは、リカバリー・モードであることと、有人 IPL を実行中であることを想定しています。

2. 保守ツールのユーザー名とパスワードを使用して、DST にサインオンします。
3. オプション 13 (システム機密保護の処理) を選択します。
4. 機密保護関連システム値をアンロックするには「機密保護関連システム値の変更の許可」パラメーターに 1 を入力し、ロックするには 2 を入力します。



このロック機能により制御されるシステム値のリストを表示するには、48 ページの『機密保護関連システム値のロック機能』を参照してください。

復元操作システム値の準備

システム値は、復元操作においては非常に重要な役割を持っています。復元操作に影響するシステム値を計画し構成することは必須です。復元を正常に行うために考慮すべき、必須の予防措置があります。詳細については、次のトピックを参照してください。

- 『復元操作システム値の計画』
システム値の設定値をどのように構成すべきかを計画するのに役立つ、質問のリストを準備します。これは、復元操作が実行されるときにどのシステム値と一緒に作用するか不確実な場合有用です。
- 56 ページの『復元操作システム値の構成』
復元操作の処理方法に影響のあるシステム値をどう構成するか、説明します。
- 57 ページの『復元コマンドの実行』
復元コマンドを実行するのに役立つ「バックアップおよび回復の手引き」へのリンクを提供します。復元コマンドによって影響されるシステム値を設定した後は、この資料を参照することが必要になります。この資料は、オブジェクトを復元する際に行う必要があるその他のステップについて説明していません。システム値は、復元処理の一部に過ぎません。

復元操作システム値の計画




復元操作を実行する前に、実行したい復元のタイプを計画しておく必要があります。その後で、ユーザーの必要性に合った正しい設定値にシステム値を構成します。そして、復元操作が実行されるときに、システムは指定どおりの正しい設定値になります。

システムにオブジェクトをどのように復元したいかを計画するために、自社の必要性に基づき次の質問に答えてください。

1. 復元される内容に、どの程度注意を払いますか。

- 復元中のオブジェクト変換をレベル 0 (0) に設定すると最も制限の緩やかな状態になり、レベル 7 (7) が最も厳格になります。
- 2. どのオブジェクトの復元を許可したいですか。
- 3. 強制オブジェクト変換 (FRCOBJCVN) パラメーターが復元中のオブジェクト変換システム値をオーバーライドすることを認めますか。

復元中のオブジェクトの変換はオーバーライドできます。復元中のオブジェクト変換システム値と、復元コマンドにおける強制オブジェクト変換パラメーターの互換性のある値のリストについては、50 ページの『復元操作におけるシステム値設定の影響』トピックを参照してください。




- 4. オブジェクト・シグニチャーについてどんな検査を実行したいですか。
- 5.  アクセス・パスの保管を実行しますか?
- 6.  復元が完了した後、次のアクセスでオブジェクトをスキャンしますか? この追加のスキャンはシステムのパフォーマンスに影響を及ぼし、不必要な場合があります。復元する予定のオブジェクトと、スキャンによるパフォーマンスへの影響の種類について考慮する必要があります。オブジェクトのスキャンを行うかどうか決定する前に、以下のことを考慮してください。
 - スキャンが失敗したオブジェクトを保管するオプションではなく、オブジェクトをスキャンするオプションで保管されたユーザー自身のオブジェクトを復元する場合は、スキャンが不必要である可能性があります。
 - トラストッド・ソースからのオブジェクトを復元する場合は、スキャンが不必要である可能性があります。



これで、復元操作を扱うシステム値をどのように設定したいか、計画ができました。『復元操作用システム値の構成』用意ができています。

復元操作用システム値の構成

復元操作をどのように機能させるかの計画ができれば、iSeries^(TM) ナビゲーターを使用して、復元操作を処理する方法を反映するようにシステム値を設定します。これで、システムは復元コマンドに対する準備が整います。iSeries^(TM) ナビゲーターで正しいシステム値を設定するには、次のステップに従ってください。

- 1. iSeries^(TM) ナビゲーターで、次のように展開します。ご使用のシステム → 「構成およびサービス」 → 「システム値」
- 2.  「保管および復元」を選択します。
- 3. 「変換」ページで、復元中のオブジェクト変換システム値を、ユーザーがオブジェクト変換を処理したい方法に合わせて設定します。
- 4. 「シグニチャー」ページで、復元時のオブジェクト・シグニチャーの検査システム値を、ユーザーがオブジェクトのシグニチャーを処理したい方法に合わせて設定します。
- 5. 「オブジェクト」ページで、機密オブジェクトの復元の許可システム値で復元を許可したいオブジェクトを選択します。
- 6.  「アクセス・パス」ページで、アクセス・パスをアクセス・パスの保管システム値に保管するかどうかを指定します。
- 7. 「OK」をクリックして、保管および復元システム値をクローズします。
- 8. オブジェクトの復元後、次のアクセスでオブジェクトをスキャンするには、次のようにします。
 - a. 機密保護を選択して、機密保護システム値をオープンします。

- b. 「スキャン」ページで、「登録済み出口プログラムを使用したルート (I)、QOpenSys、およびユーザー定義のファイル・システムのスキャン」を選択します。出口プログラムの登録については、スキャン・オプションを参照してください。
- c. 「指定されたスキャン制御オプションを使用する」を選択します。
- d. 「オブジェクトの復元後、次のアクセス時にスキャンする」オプションを選択します。
- e. 「OK」をクリックして、機密保護システム値をクローズします。◀◀

システム値の設定値を構成したら、これらのシステム値設定値を使用する復元操作を実行する用意ができたことになります。ただし、単一のオブジェクトの復元やシステム全体の復元には、さらに事前に注意すべき事項があります。詳細については、『復元コマンドの実行』の方法を参照してください。

復元コマンドの実行

どのような復元操作を行うかの計画と、復元を適切に処理するための構成ができれば、復元コマンドを実行する用意ができたことになります。

復元操作を実行する前に、復元時の強制変換システム値が、復元コマンドの強制オブジェクト変換 パラメーターと互換性のある設定になっていることを確認します。これら 2 つの設定値の互換性の詳細については、50 ページの『復元操作におけるシステム値設定の影響』トピックを参照してください。

「iSeries (TM) バックアップおよび回復の手引き」  を参照して、復元操作を正しく行ってください。

システム値の保管


システム値を変更する度に、システム値の設定を保管する必要があります。システム値の保管は、次のような状態が発生した場合、ご使用のシステムにとって重要になります。

- 災害に遭い、システム全体を復元しなければならない場合。
- システム値 (単数または複数) が損傷を受けた場合。

いずれの状態においても、現行システム値の設定値を保管しておけば、システム値情報が失われることはありません。

システム値はシステム・ライブラリー QSYS に保管されます。次のことを行くと、QSYS ライブラリーが保管されます。

- 「保管に進む (Go Save)」コマンド・メニューを使用し、オプション 21 (システム全体) を選択してシステム全体を保管します。
- 「保管に進む (Go Save)」コマンド・メニューを使用し、オプション 22 (システム・データのみ) を選択してシステム・データのみを保管します。
- i5/OS (TM) プラグインの Backup Recovery and Media Services を使用している場合は、*SYSTEM (システム全体のバックアップ) バックアップ・ポリシーまたは *SYSGRP (すべてのシステム・データのバックアップ) バックアップ・ポリシーを使用します。

システム全体を回復する必要がある場合、オペレーティング・システムを復元するときにユーザーのシステム値は自動的に復元されます。詳しくは、「iSeries (TM) バックアップおよび回復の手引き」  を参照してください。

システム・アクセス・レベルの保護

会社に適合した正しいレベルの機密保護をインプリメントするために、パスワード・システム値を使用してシステム・アクセスを制限することをお勧めします。パスワード・システム値を正しく設定することにより、会社は機密保護のレベルをコントロールすることができます。

たとえば、ある会社で最近、機密性の高い財務アプリケーションを実行するサーバーが追加された場合、おそらくその会社のシステム機密保護ポリシーを再評価する必要があります。一般には、その会社は中程度に厳格な機密保護ポリシーに従います。ポリシーを完全に書き直すよりも、パスワード規則を強化して新たな財務システムへのサインオン・アクセスを制限することにします。

財務システムに入ることを保護するには、以下のようにします。

- パスワードをありふれたものにしてはならないこと、パスワードを共用してはならないことを述べたポリシーを設定します。
- 新しいポリシーを強制する援助となるシステム値を設定します。(表 1 参照)

さらに、ユーザーに次のような情報を提供したい場合もあるでしょう。

- パスワードの基準のリスト。
- 正しいパスワードおよび正しくないパスワードの例。(表 2 参照)
- 良いパスワードを考える方法の提案。

表 1: システム値の設定値

以下のテーブルでは、新しいパスワード要件をインプリメントするために推奨されるパスワード・システム値の設定をリストします (これらの値は、サインオン・アクセスをユーザーがどこまで厳格に制限したいかによって変わる場合があります)。

iSeries TM ナビゲーターでの名前	推奨値	文字ベース・インターフェース での名前
パスワード有効期限	60 日間	QPWDEXPITV
連続数字の制限	はい	QPWDLMTAJC
パスワード・レベル	3 (注 1 を参照)	QPWDLVL
パスワードの最大長	8 文字	QPWDMAXLEN
パスワードの最小長	6 文字	QPWDMINLEN
各位置に異なる文字が必要	はい	QPWDPOSDIF
数字が少なくとも 1 つ必要	はい	QPWDRQDDGT
パスワードの再利用サイクル	10 パスワード	QPWDRQDDIF
パスワード妥当性検査プログラム	なし (注 2 を参照)	QPWDLDPGM
反復文字の制限	文字は続けて使用できない	QPWDLMTREP
制限される文字	A、E、I、O、U、@、#、および \$	QPWDLMTCHR

注 1: V5R1 以前の iSeries サーバーまたは長いパスワードをサポートしないサーバーと接続する必要がある場合には、パスワード・レベル 3 (限定されていない文字セットを使用した長いパスワード。Windows 95/98/ME クライアント上では iSeries (TM) NetServer は使用不可) は使用できません。

注 2 このシステム値を変更するには、文字ベース・インターフェースを使用する必要があります。このシステム値は、iSeries (TM) ナビゲーターにはありません。文字ベースのインターフェースをオープンし、次のように入力します。

```
CHGSYSVAL VALUE(QPWDVLDPGM) VALUE('*NONE')
```

表 2: パスワードの例

次の表は、良いパスワードと良くないパスワードの例を示します。

パスワード	詳細
JohnDoe	良くない。名前は使用してはならない。また、数字が使用されていない。
112000	良くない。ユーザーに関連して識別できてしまう日付は使用してはならない。
aaaxyz	良くない。2 つ以上の連続文字が使用されており、許されない文字 (a) が使用されている。また、数字が使用されていない。
cm2s0j	良い。良いパスワードのすべての基準を満たしている。
c0mptr	良い。良いパスワードのすべての基準を満たしている。
Mfc1RB	良い。良いパスワードのすべての基準を満たしている。このパスワードの考え方は、ある文の各単語の最初の文字を使用している、すなわち「My favorite color is Royal Blue」。母音を数字で置き換え、大文字と込み時を組み合わせで使用している。

これらのステップを完了することにより、パスワード・システム値を変更し、財務システムへのサインオン・アクセスを厳重にします。それぞれのパスワード・システム値の値を、自分の会社の機密保護レベルに合うように変更することができます。この例では、中程度に厳格な環境をつくるためにパスワード・システム値が一緒に作用する一つの方法を示しています。

iSeries (TM) ナビゲーターで表示し変更できる上記およびその他のシステム値については、以下のセクションを参照してください。

37 ページの『i5/OS (TM) システム値: パスワード概要』

すべてのパスワード・システム値を説明しています。さらに、それぞれのシステム値のさまざまな設定値を説明する、特定のパスワードの説明へのリンクを見つけることができます。

5 ページの『i5/OS (TM) システム値ファインダー』

このツールを使用して、iSeries (TM) ナビゲーターの中でシステム値を見つけます。i5/OS (TM) システム値ファインダーは、文字ベースのインターフェースで使用されていたシステム値用語から、iSeries (TM) ナビゲーターで使用されている用語に切り替えるときにとくに便利です。

28 ページの『システム値カテゴリー』

これを使用すると、iSeries (TM) ナビゲーターにあるすべてのシステム値カテゴリーの概要を見つけることができます。

システム値インベントリーの処理

OS/400 V5R1 以降稼働している任意のエンドポイント・システムの、システム値のインベントリーを収集することができます。これらのインベントリーを収集したら、iSeries (TM) ナビゲーターを使用して、モデル・システムとこれらの選択されたターゲット・システムの 53 ページの『システム値を比較して更新』することができます。モデル・システムと一致させるために、ターゲット・システムのシステム値を変更することも選択できます。

システム値の比較と更新を行う前に、システム値インベントリーが現行のものであることを確認したほうがよいでしょう。「比較と更新」ウィンドウには、システム値インベントリーが最後にターゲット・システムから収集された日付と時刻が表示されます。比較と更新には、エンドポイントのインベントリー・データが使用されるため、現行のインベントリーが必要です。システムまたはグループのインベントリーを収集するには、単にそのエンドポイントまたはシステム・グループを右クリックし、「インベントリー」を選択してから「収集」を選択するだけです。

システム値インベントリーを PC ファイルにエクスポートすることもできます。これらの PC ファイルにはインベントリーのヒストリーがあって、データをスプレッドシート・プログラムまたはその他のアプリケーションで処理することができます。システム値インベントリーをエクスポートするには、エンドポイント・システムまたはシステム・グループを右クリックして、「システム値」を選択し、「エクスポート」を選択します。「比較と更新」ウィンドウから「エクスポート」ボタンをクリックすることもできます。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

(C) (お客様の会社名) (年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。(C) Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Application System/400

AS/400

e (ロゴ)

eServer

i5/OS

Freelance

IBM

iSeries

Lotus

Operating System/400

OS/400

WordPro

400

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人使用のために複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もし

ません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。



Printed in Japan